



# 放射線

鳥居 寛之  
小豆川勝見  
渡辺雄一郎  
著  
中川 恵一  
執筆協力

科学的に  
理解する

基礎からわかる東大教養の講義

丸善出版

## 「放射線を科学的に理解する

— 基礎からわかる東大教養の講義 —

鳥居寛之・小豆川勝見・渡辺雄一郎 著

中川恵一 執筆協力

丸善出版

本体 2500円＋税

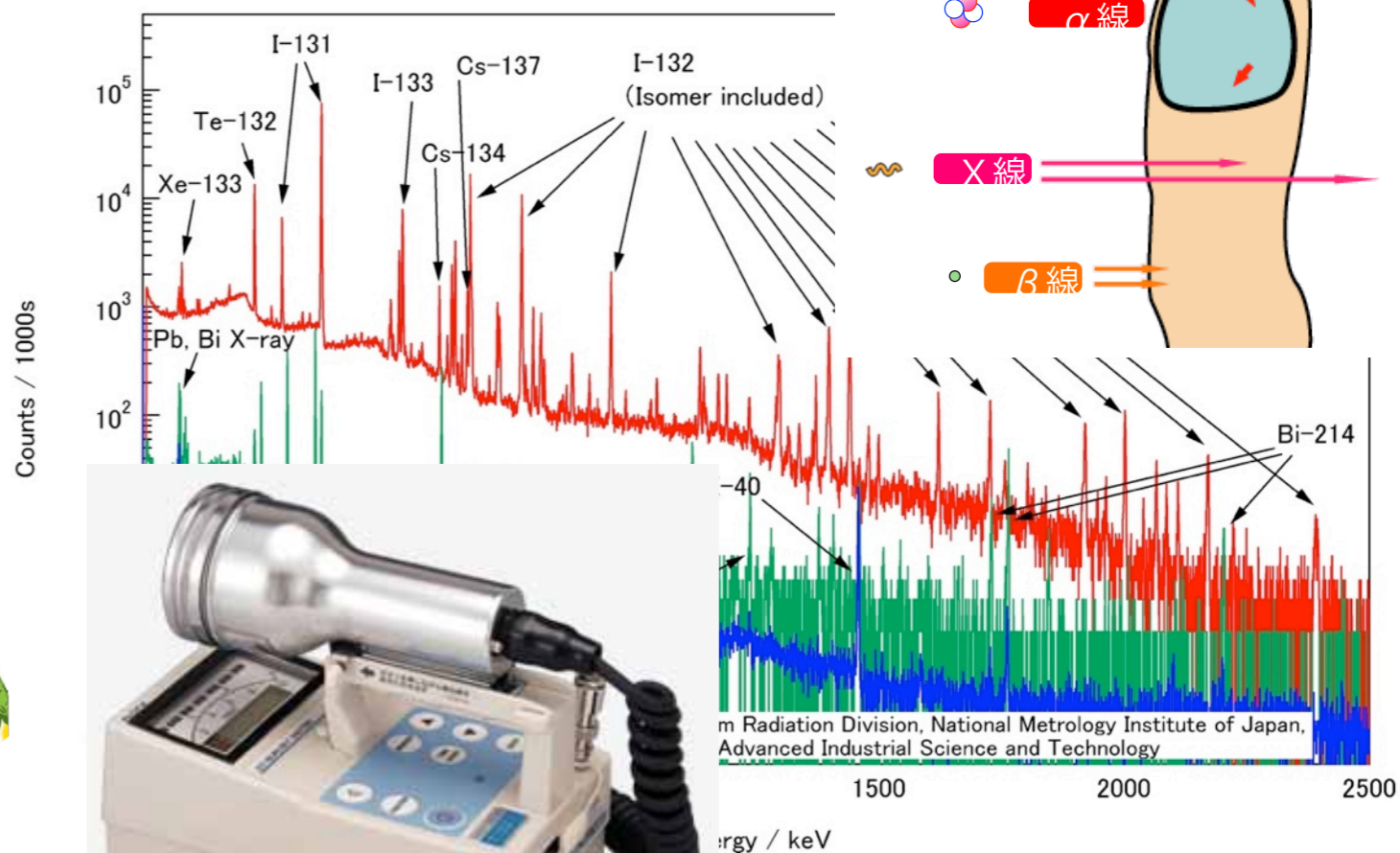
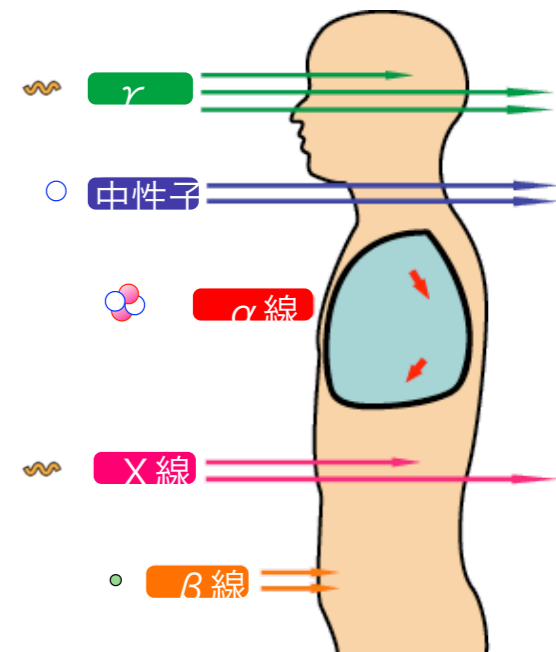
- 1章 放射線とは？《放射線入門》
  - 2章 放射線の性質《放射線物理学 I》
  - 3章 原子力発電で生み出される放射性物質  
《原子核物理学・原子力工学》
  - 4章 放射線量の評価《放射線物理学 II》
  - 5章 放射線の測り方《放射線計測学》
  - 6章 環境中での放射性物質《環境放射化学》
  - 7章 放射線の細胞への影響《放射線生物学》
  - 8章 放射線の人体への影響《放射線医学》
  - 9章 放射性物質と農業《植物栄養学・土壤肥料学》
  - 10章 放射線の防護と安全《放射線防護学》
  - 11章 役に立つ放射線《放射線の利用・加速器科学》
- Q&A

放射線を理解するには、物理学・化学・生物学・医学・工学など多くの分野の知識が必要です。しかしこれらすべてを網羅することは難しく、系統立てて学べる機会是非常に少ないのが実情です。

本書は東京大学教養学部で行われた講義をもとに、放射線について多角的に学べるよう配慮しています。日常生活や原発事故にかかわる具体的な例を引きながらやさしくていねいに解説しましたので高校生や一般の方にも広く読んでいただきたいと願っています。

<http://radphys4.c.u-tokyo.ac.jp/~torii/lecture/radiolect-kn.html>

# 放射線の科学と安全



2015 / 4 / 14 (木)

## 第3話

# 放射線計測学・環境放射化学

## 放射線の単位・線量計算



# 放射線計測学

# 様々な放射線測定器

電離箱, 比例計数管, GM管

気体の電離を利用

ワイヤーチェンバー

シンチレータ + 光電子増倍管

蛍光作用

**NaI, CsI, プラスチックシンチレータ, ZnS**

半導体検出器

**Ge, Si(Li)**

計数 / エネルギー分析 (核種同定)

サーベイメータ (空間線量率・表面濃度)

/ 食品検査



霧箱

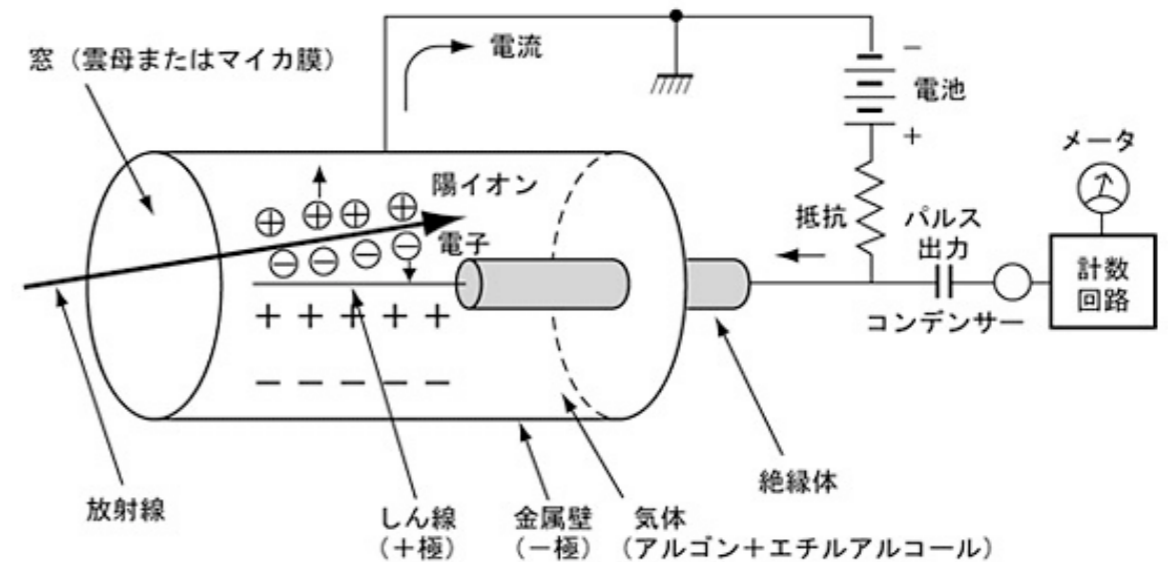
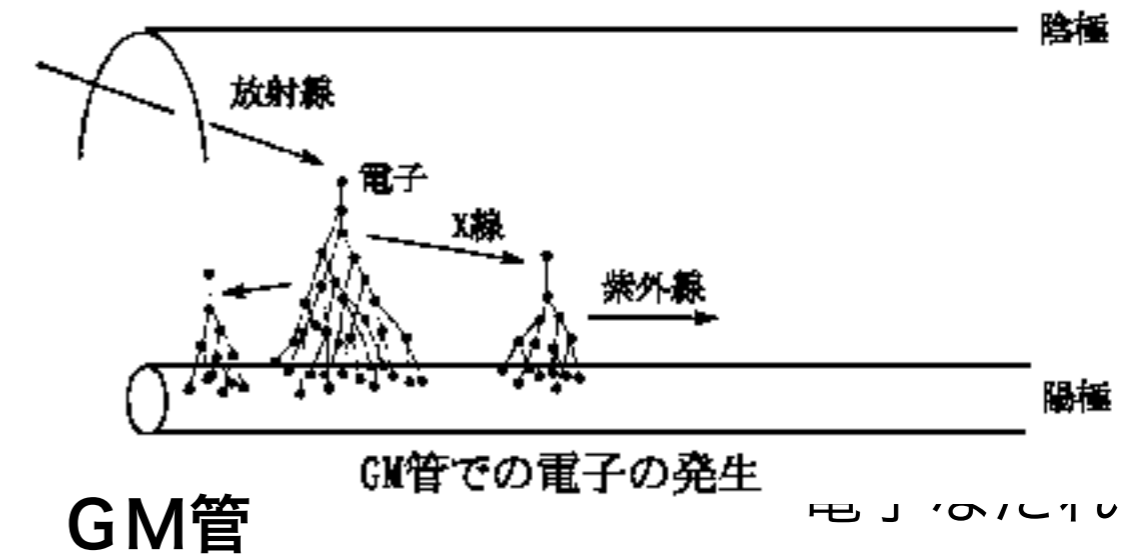
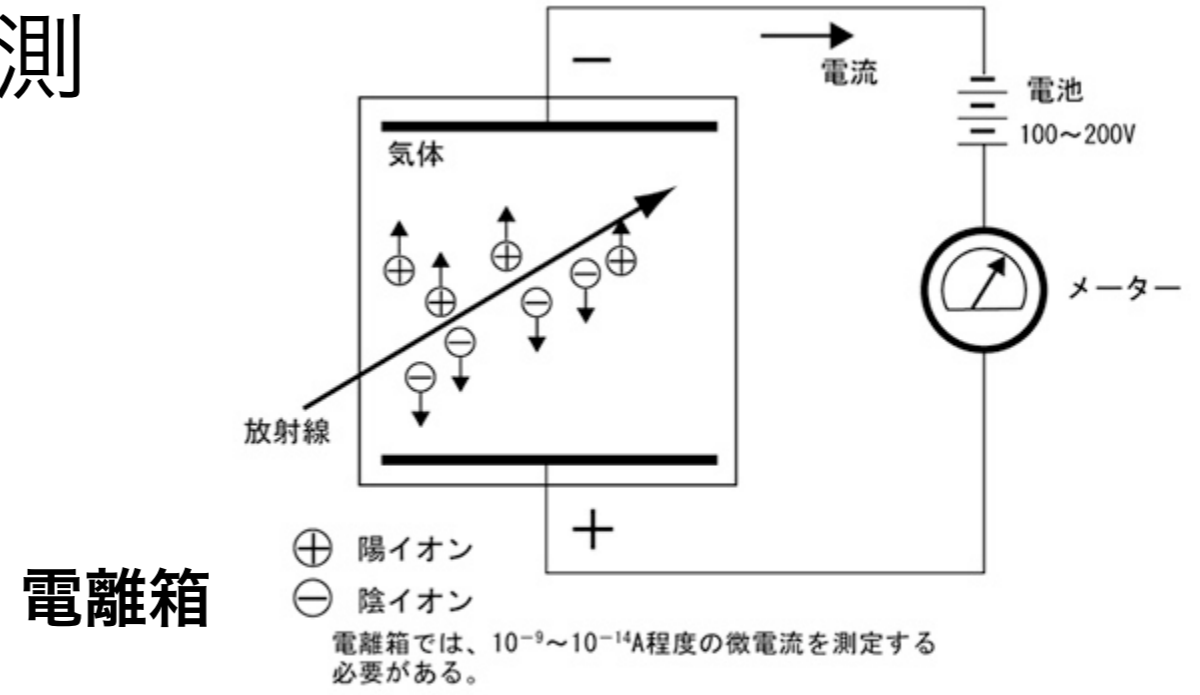
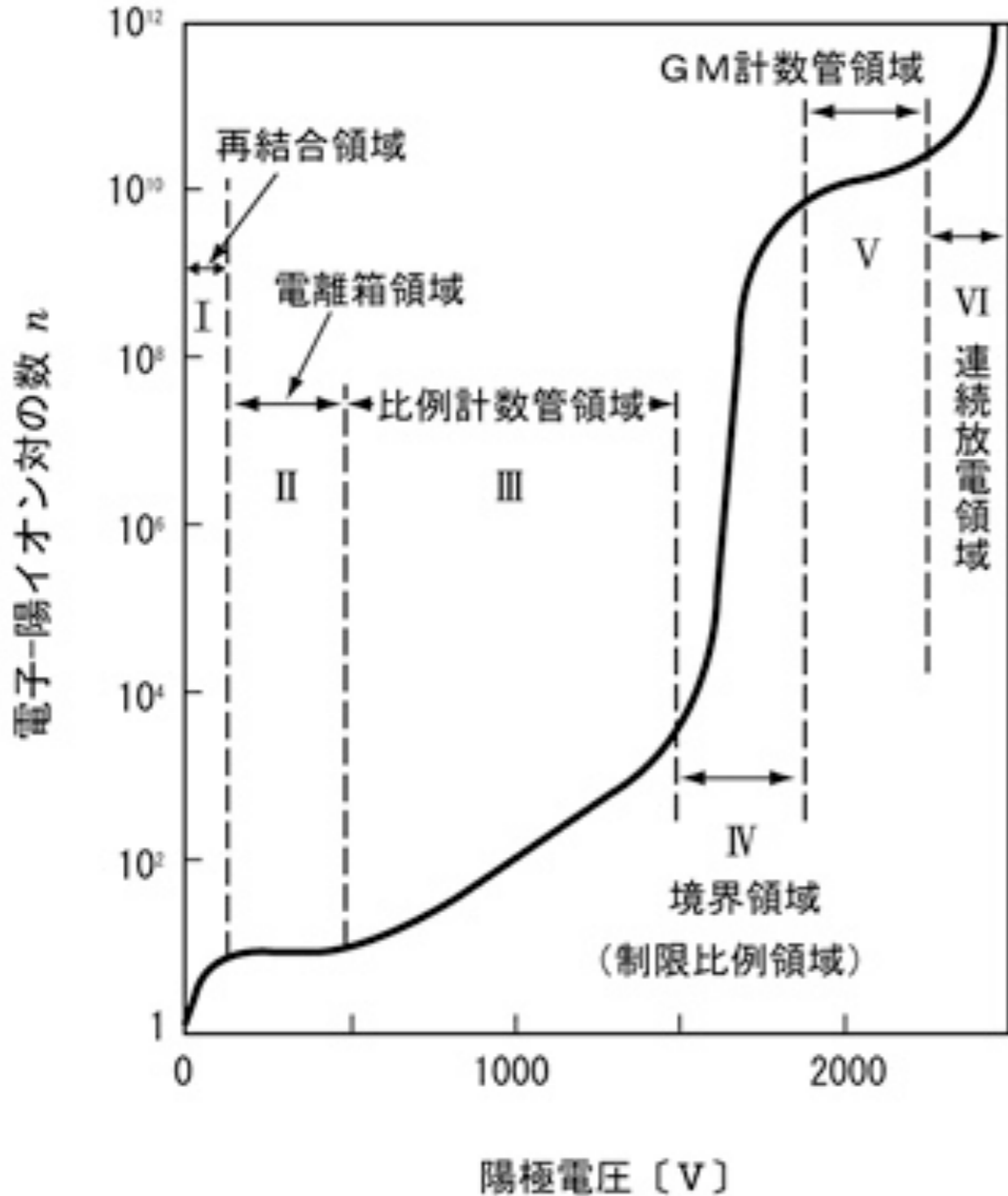
Stream chamber



# 気体の電離を利用する放射線計測

## 電離箱, 比例計数管, GM管

(ガイガー・ミュラー管)





# シンチレータ (Scintillators)

プラスチックシンチレータ  
およびライトガイド

無機 : NaI (Tl), CsI (Tl) (γ線、X線)

BGO, GSO など (γ線、X線)  
 $\text{Bi}_4\text{Ge}_3\text{O}_{12}$   $\text{Gd}_2\text{SiO}_5$

ZnS (Ag) (α線)

BaF<sub>2</sub>

有機 : プラスチックシンチレータ (電子線)  
(荷電粒子)

例 : PPO, POPOP / ポリスチレン

: 液体シンチレータ (β線)

例 : p-テルフェニル

/ トルエン、キシレン

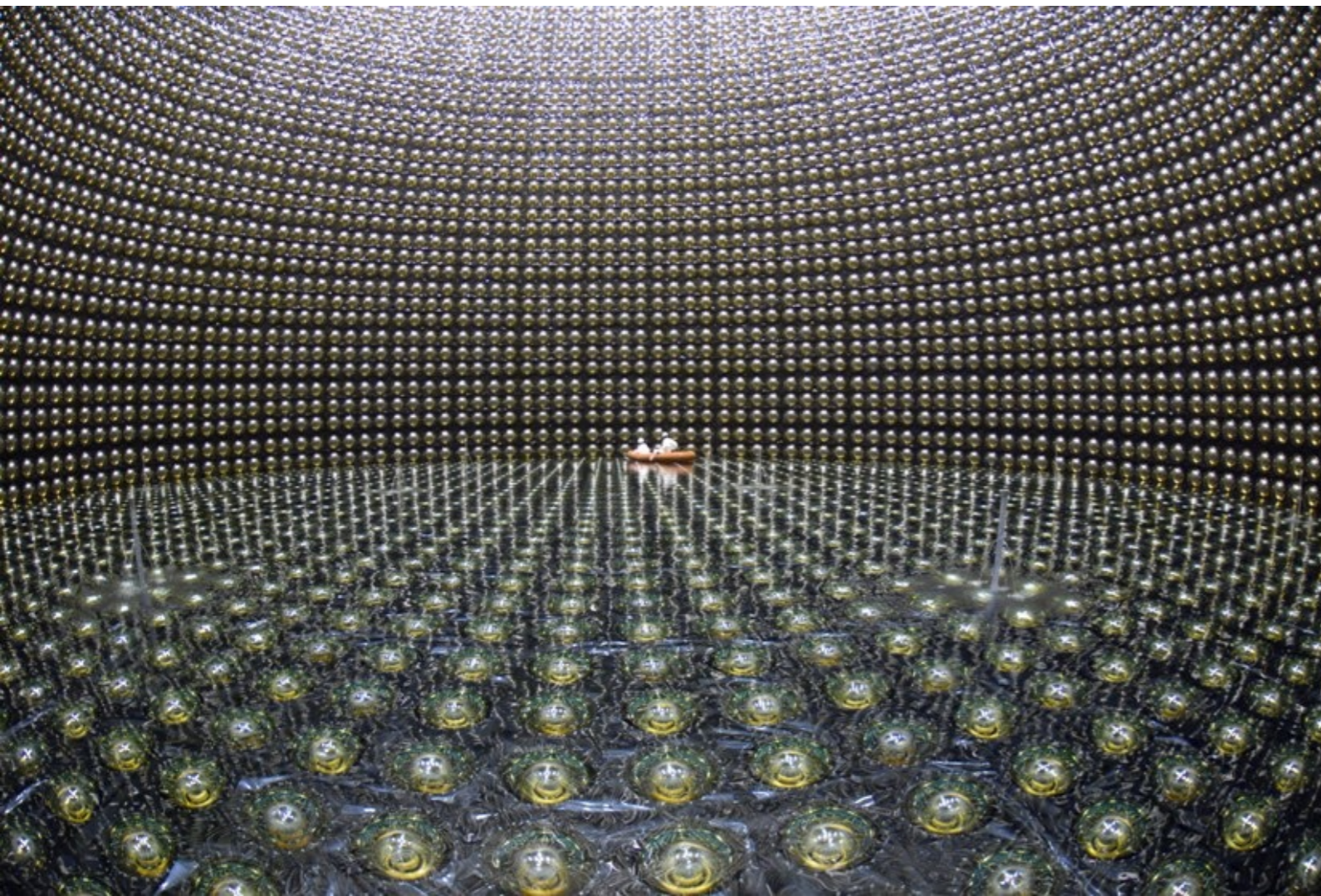
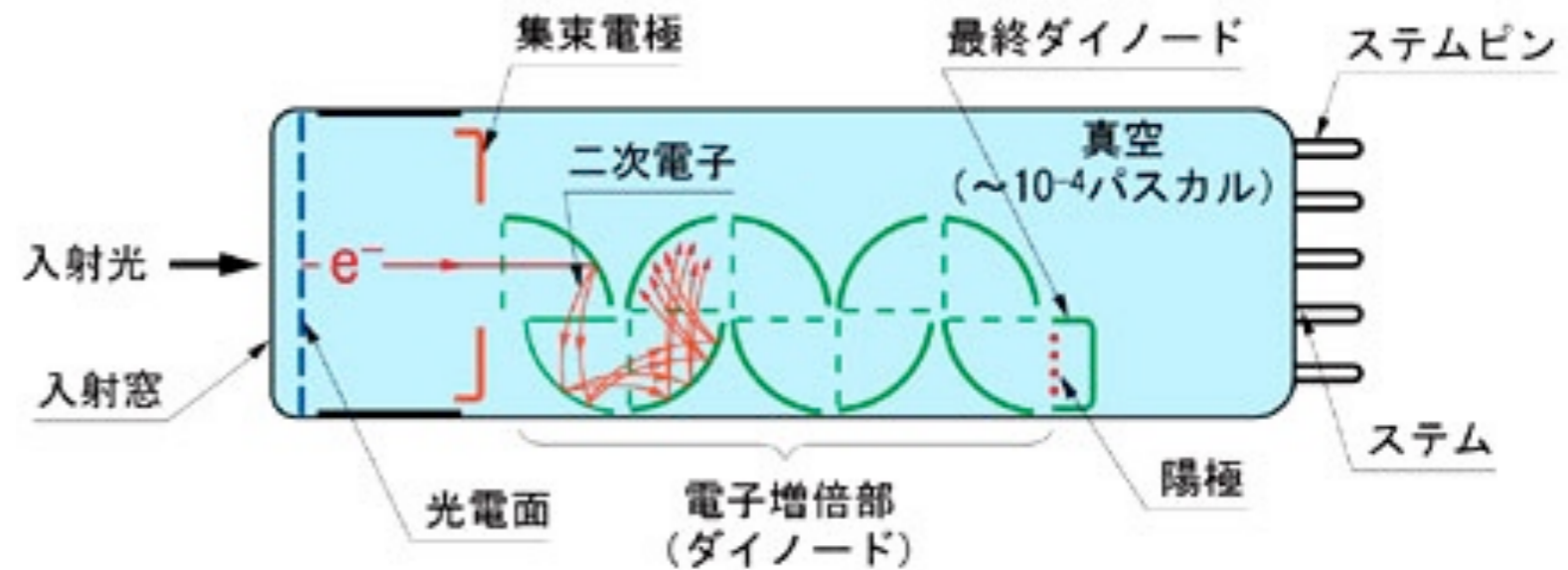
電気パルス : タイミング : 粒子透過時刻  
: パルス高 : エネルギー



液体シンチレーションカウンタ



# 光電子増倍管 (PMT: Photomultiplier tube)



光  $\Rightarrow$  光電効果  $\Rightarrow$  電子増幅  
 $\Rightarrow$  電流

シンチレータとの組み合わせ  
Scintillator

放射線  $\Rightarrow$  分子の励起  $\Rightarrow$  蛍光  
光  $\Rightarrow$  光電子増倍管



# 放射線の測定

計数 (cps = counts per second)

サーベイメータ 【空間線量率測定】

$\beta$  ( $\gamma$ ) /  $\gamma$



GM管

$\beta$  ( $\gamma$ ) /  $\gamma$



電離箱

$\gamma$



CsI (Tl)

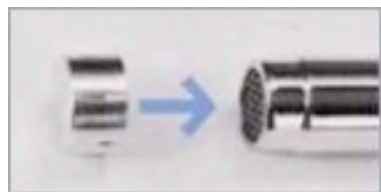


NaI (Tl)



$\beta$  ( $\gamma$ )

【表面汚染検査】



$\gamma$

$\beta$  ( $\gamma$ )



GM管

$\alpha$



ZnS (Ag)



# 放射線管理区域

管理区域  
(使用・貯蔵施設)



許可なくして  
立入りを禁ず

放射性同位元素  
使用室



第 2 種

←開閉→









ALOKA  
MBR-201

ALOKA  
MBR-201



# 可搬型の空間線量計



日立アロカ社ウェブサイトより



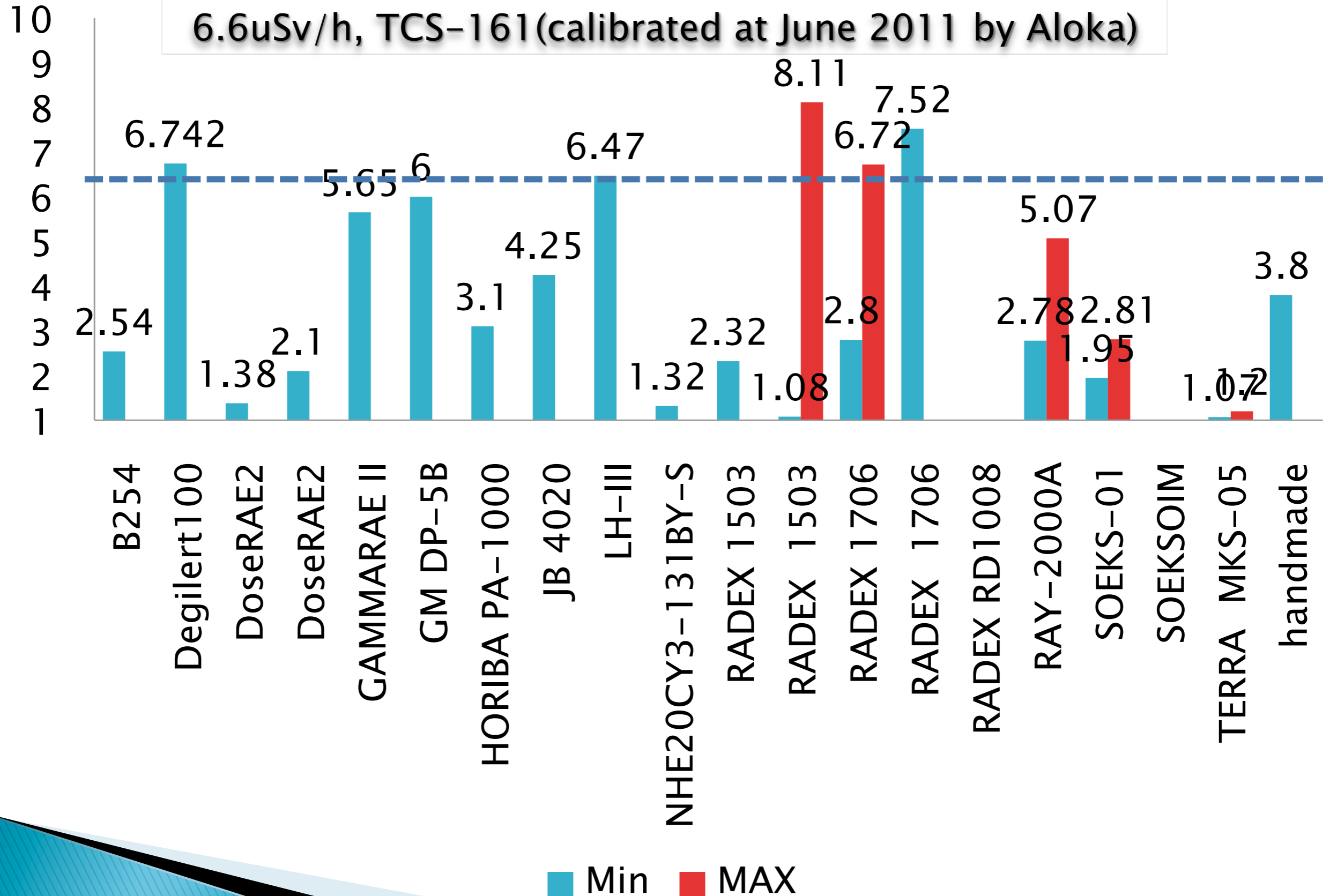
HORIBA社ウェブサイトより

- ▶ それぞれの測定器の特性と示される値の意味は何か。
- ▶ 同じ対象物を測定しているのになぜ値が異なるのか。





# 以前の勉強会での測定結果



# 放射線の測定

## 半導体検出器

(Semiconductor detectors)

例：Si(Li) 検出器 (X線)

Ge 検出器 (高エネルギー分解能)

( $\gamma$ 線・X線)

放射線  $\Rightarrow$  電離

$\Rightarrow$  電子正孔対  $\Rightarrow$  電荷測定

電気パルス：パルス高：エネルギー

**エネルギー分析 (核種同定)**

## 試料測定

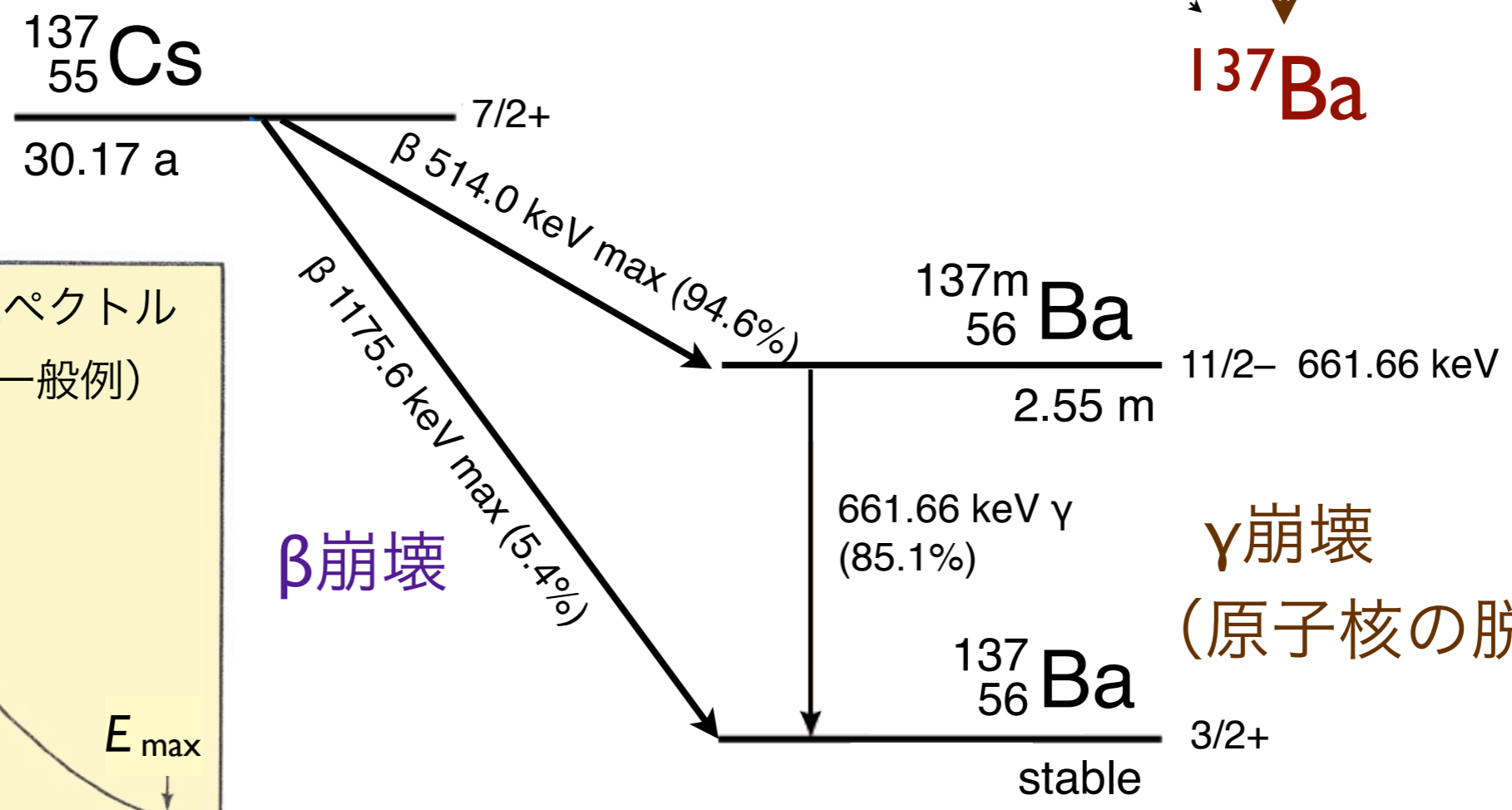
$\gamma$  ゲルマニウム検出器 (Ge detector)



食品検査用ゲルマニウム検出器

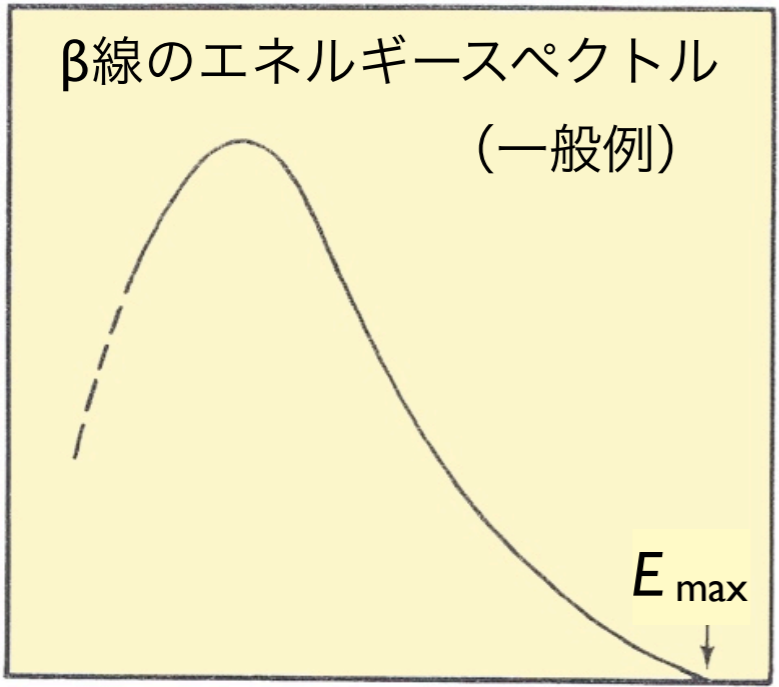






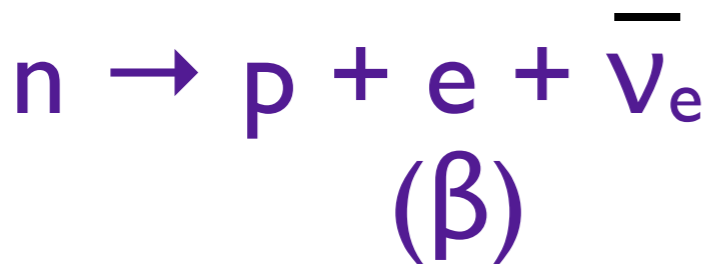
$\gamma$ 崩壊  
 (原子核の脱励起)

粒子数の分布



エネルギー  $E_\beta$

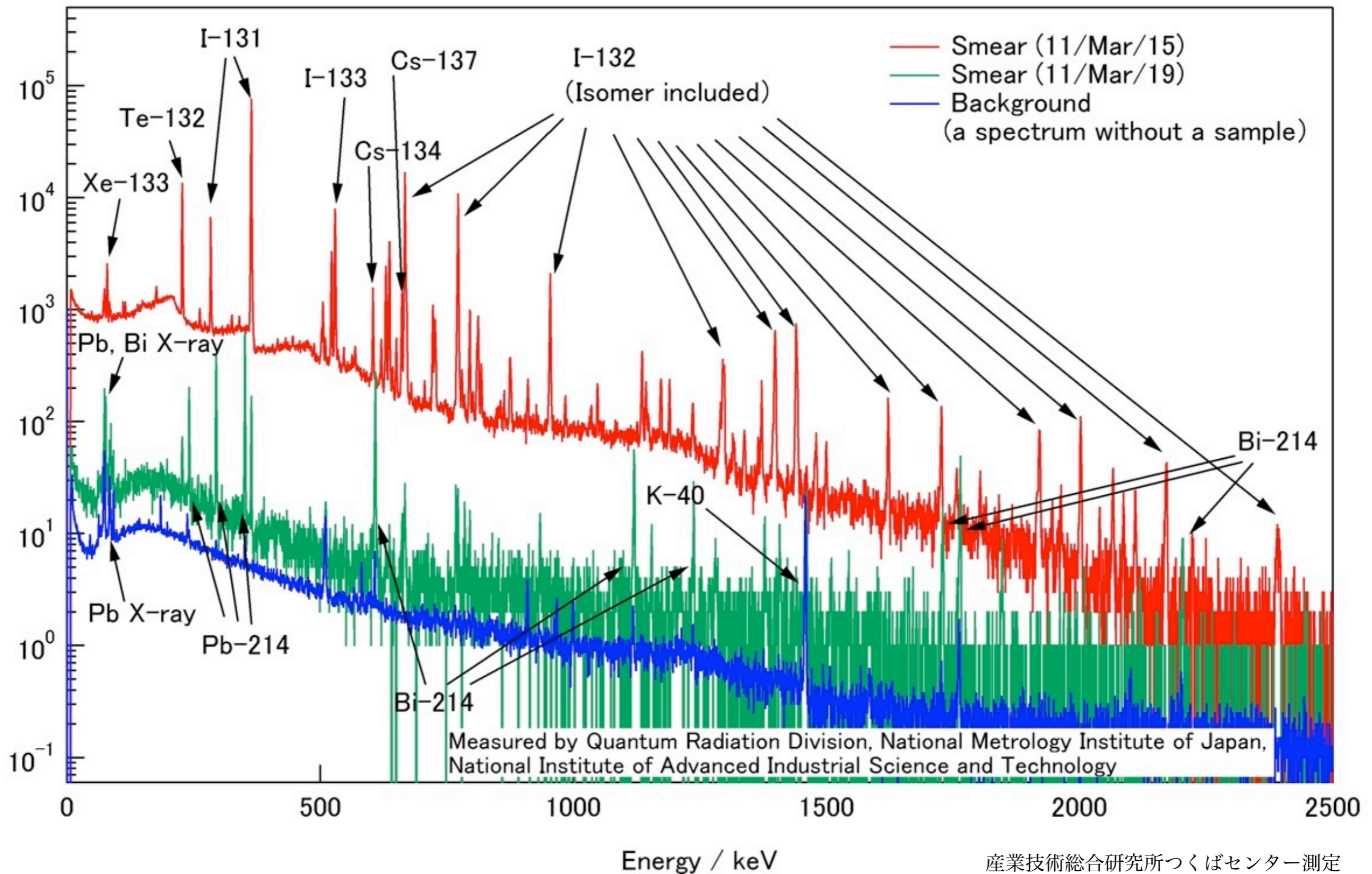
$\beta$ 線 (連続スペクトル)



$\gamma$ 線 (定まったエネルギー)

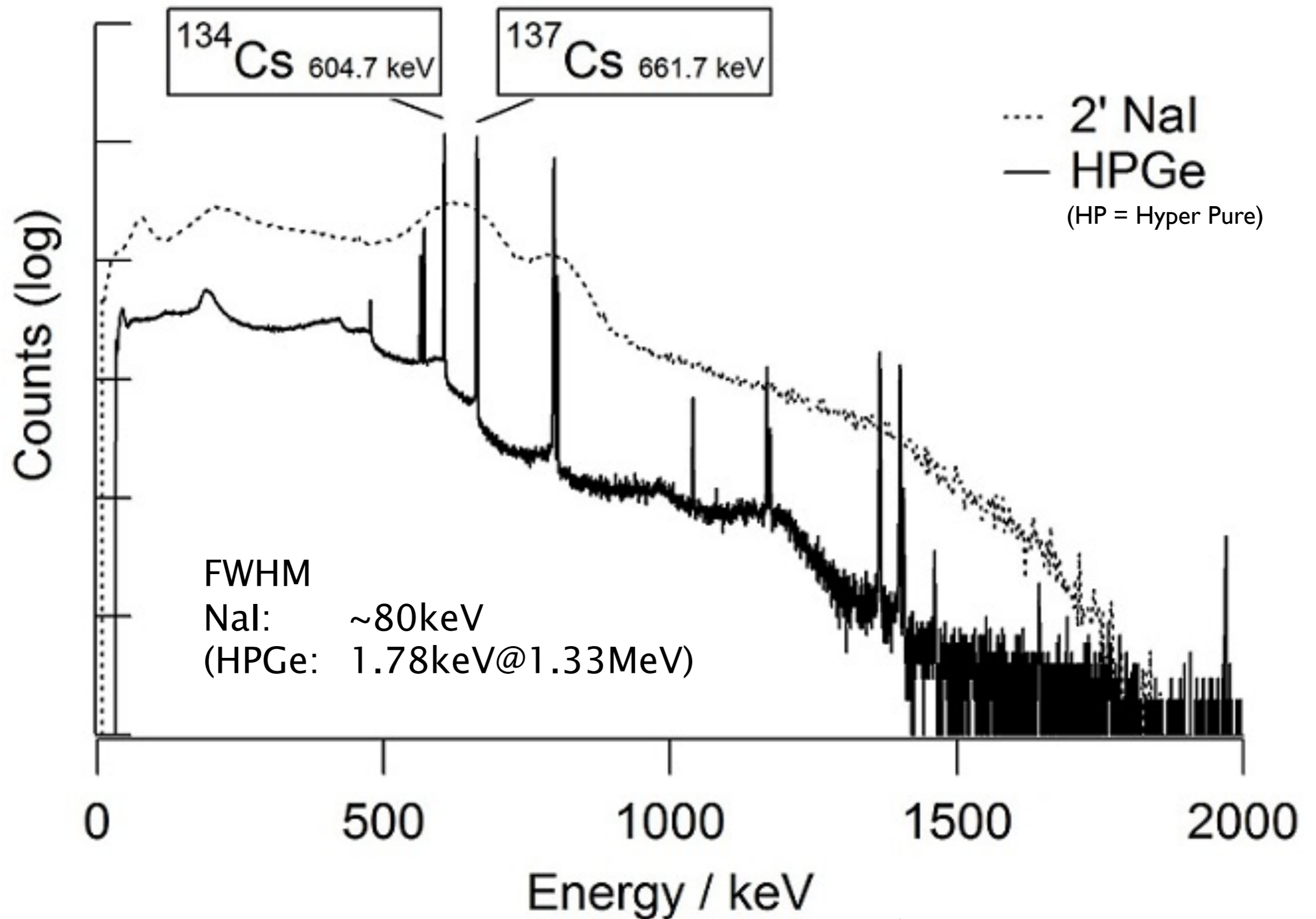
# エネルギー分析 (核種同定)

## ガンマ線スペクトル (ゲルマニウム検出器)





# γ線スペクトルの比較(NaIカウンターvsGe半導体検出器)



# 食品中の放射性物質の基準値

## ■放射性セシウムの基準

2012/1/20 朝日新聞

暫定基準		新基準案	
野菜類	500 Bq/kg	一般食品 (野菜類、穀類、 肉・卵・魚・ その他)	100 Bq/kg
穀類	500 Bq/kg		
肉・卵・魚・その他	500 Bq/kg		
飲料水	200 Bq/kg	飲料水	10 Bq/kg
牛乳・乳製品	200 Bq/kg	牛乳	50 Bq/kg
		乳児用食品	50 Bq/kg

(1kgあたり)

一般食品の新基準値の出し方  
mSvはミリシーベルト。Bqはベクレル

食品からの被曝線量の限度

1mSv/年

飲料水分

0.1mSv/年

一般食品に割り当てる分

0.9mSv/年

食品に含まれるセシウムが1kgあたり何Bqまでなら0.9mSvを超えないか?

食べる量、種類などをもとに年代別に計算

年齢区分	性別	限度値 (Bq/kg)
1歳未満	男女平均	460
1~6歳	男	310
	女	320
7~12歳	男	190
	女	210
13~18歳	男	<b>120</b>
	女	150
19歳以上	男	130
	女	160
妊婦		160



100 ベクレルの放射性セシウムは何グラムか。

(そもそも、福島第一原発から環境中に放出された放射性物質は全部でどのくらいの量か。)

放射線はどうやって測るのか。検出限界以下 (N.D.) とは？

(検出限界値を限りなく下げるより、スクリーニングで多量汚染のものを確実に避けることが重要)



# どうやって測っている？ (I)

100 Bq/kg = 10 Bq / 100 g

検出効率は 1% 程度

(立体角・Ge結晶による検出効率)

$^{134}\text{Cs}$  と  $^{137}\text{Cs}$  の放射能比は 1:1

(福島原発事故当時)

基準値は、測定上はそれぞれの核種で

**0.05 cps / 100 g に相当**

(20秒に1カウント！)

低バックグラウンド環境での測定が必須

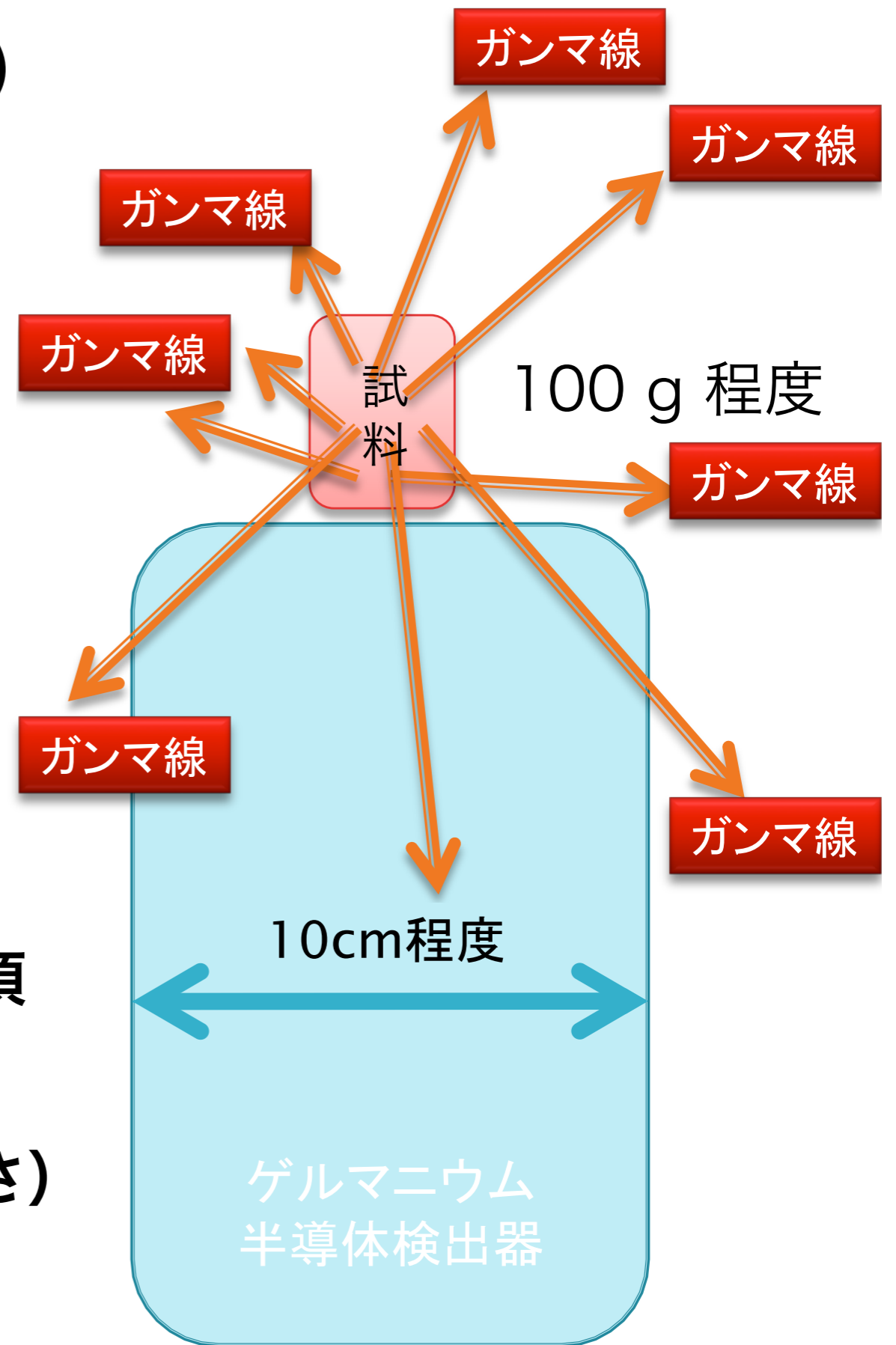
(環境放射線の遮蔽)

長時間の測定が必要 (統計学的不確かさ)

(最低でも1時間以上の測定)

短時間では**検出限界値**が低くできない。

⇒ **N.D.** (Not Detected = **不検出**)  $\neq$  0 Bq (不存在)



(図の提供：東京大学教養学部 小豆川勝見先生)

# 10試料の測定結果(良くない表記)

No.	試料	採取場所	$^{134}\text{Cs}$ (Bq/kg)	$^{137}\text{Cs}$ (Bq/kg)
1	畑の土	練馬区内	ND	14.1
2	ジャガイモ	練馬区内	4.58	7.16
3	培養土	練馬区内	5.95	9.35
4	梅	練馬区内	ND	ND
5	干し椎茸	群馬産	ND	ND
6	路傍の土	練馬区内	4110	6330
7	生椎茸	富山産	ND	ND
8	カツオ	?	ND	ND
9	田圃の土	練馬区内	185	298
10	ブルーベリー	練馬区内	1.42	ND



# 10試料の測定結果(ちょっと良い)

No.	試料	採取場所	$^{134}\text{Cs}$ (Bq/kg)	$^{137}\text{Cs}$ (Bq/kg)
1	畑の土	練馬区内	ND	$14.1 \pm 2.17$
2	ジャガイモ	練馬区内	$4.58 \pm 0.55$	$7.16 \pm 0.86$
3	培養土	練馬区内	$5.95 \pm 1.43$	$9.35 \pm 1.89$
4	梅	練馬区内	ND	ND
5	干し椎茸	群馬産	ND	ND
6	路傍の土	練馬区内	$4110 \pm 20.9$	$6330 \pm 38.7$
7	生椎茸	富山産	ND	ND
8	カツオ	?	ND	ND
9	田圃の土	練馬区内	$185 \pm 11.6$	$298 \pm 19.4$
10	ブルーベリー	練馬区内	$1.42 \pm 0.29$	ND

# 10試料の測定結果(詳細)

No.	試料	採取場所	$^{134}\text{Cs}$ (Bq/kg)	$^{137}\text{Cs}$ (Bq/kg)
1	畑の土	練馬区内	ND(5.56)	14.1±2.17
2	ジャガイモ	練馬区内	4.58±0.55(0.23)	7.16±0.86(2.33)
3	培養土	練馬区内	5.95±1.43(5.82)	9.35±1.89(6.78)
4	梅	練馬区内	ND(2σ)(3.98)	ND(2σ)(4.04)
5	干し椎茸	群馬産	ND(26.6)	ND(29.4)
6	路傍の土	練馬区内	4110±20.9(24.6)	6330±38.7(21.6)
7	生椎茸	富山産	ND(5.65)	ND(5.73)
8	カツオ	?	ND(4.12)	ND(5.32)
9	田圃の土	練馬区内	185±11.6(37.5)	298±19.4(33.5)
10	ブルーベリー	練馬区内	1.42±0.29(1.01)	ND(2σ)(1.38)



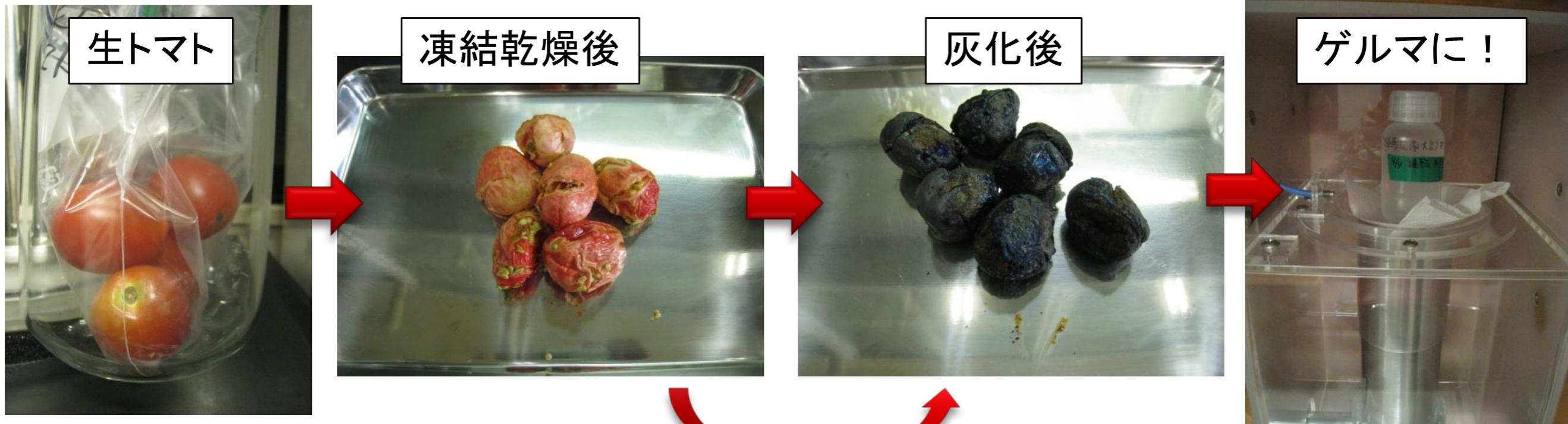
# 食品に含まれる放射性物質の測り方

- ▶ 食品の放射能は正確に測りにくい！
  - 水っぽい(水は放射線の遮蔽剤)
  - 隙間があったり密度が一定でなかったり
  - ひとつひとつのサンプルには揺らぎがある

なぜ灰にするの？

含まれる放射性物質を濃縮する(焼却炉の灰と同じ理屈)ことで、検出限界値を超えて測りやすくする

## 食品(トマト)の前処理

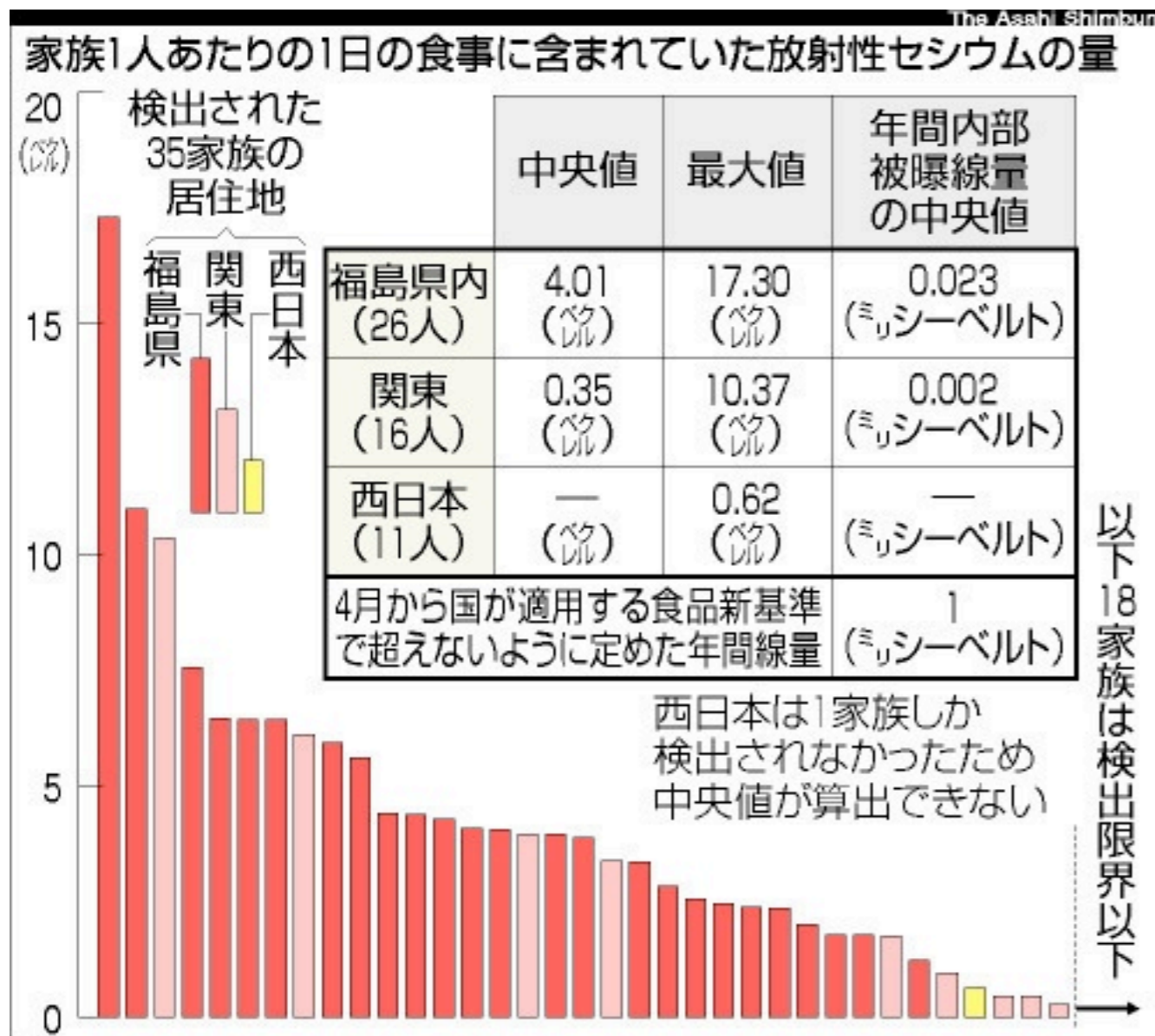


飛灰を発生させないように炭状にする

## 現在の放射性物質の基準値

核種	基準値(Bq/kg)	
放射性ヨウ素( $^{131}\text{I}$ )	300	
放射性セシウム( $^{134+137}\text{Cs}$ )	飲用水	10
	一般食品	100

# セシウムによる内部被曝について：食卓陰膳検査



2012/1/18 朝日新聞：京都大医学研究科 小泉昭夫教授らの調査

最近の調査結果をみれば、ひとまず安心。

自然の内部被曝に比べ一割以下  
(いろいろ批判されてきたが) 食品規制が奏効しているようだ。

## ■放射性セシウムの基準

暫定基準		新基準案	
野菜類	500%	一般食品 (野菜類、穀類、肉・卵・魚・その他)	100%
穀類	500%		
肉・卵・魚・その他	500%		
飲料水	200%	飲料水	10%
牛乳・乳製品	200%	牛乳	50%
		乳児用食品	50%

(1kgあたり)

事故前から体内に存在する放射性物質による自然放射線の内部被曝量 (体重 60 kg の人)

カリウム40、炭素14などあわせて 7200 ベクレル：0.3 ミリシーベルト/年間

うち、カリウム40 が 4100 ベクレル：0.2 ミリシーベルト/年間



# 福島米の全量全袋検査



基準値 (100 Bq/kg) 超え  
0袋 / 1077万袋 (2014年)  
28袋 / 1100万袋 (2013年)  
71袋 / 1034万袋 (2012年)



# 内部被曝の評価

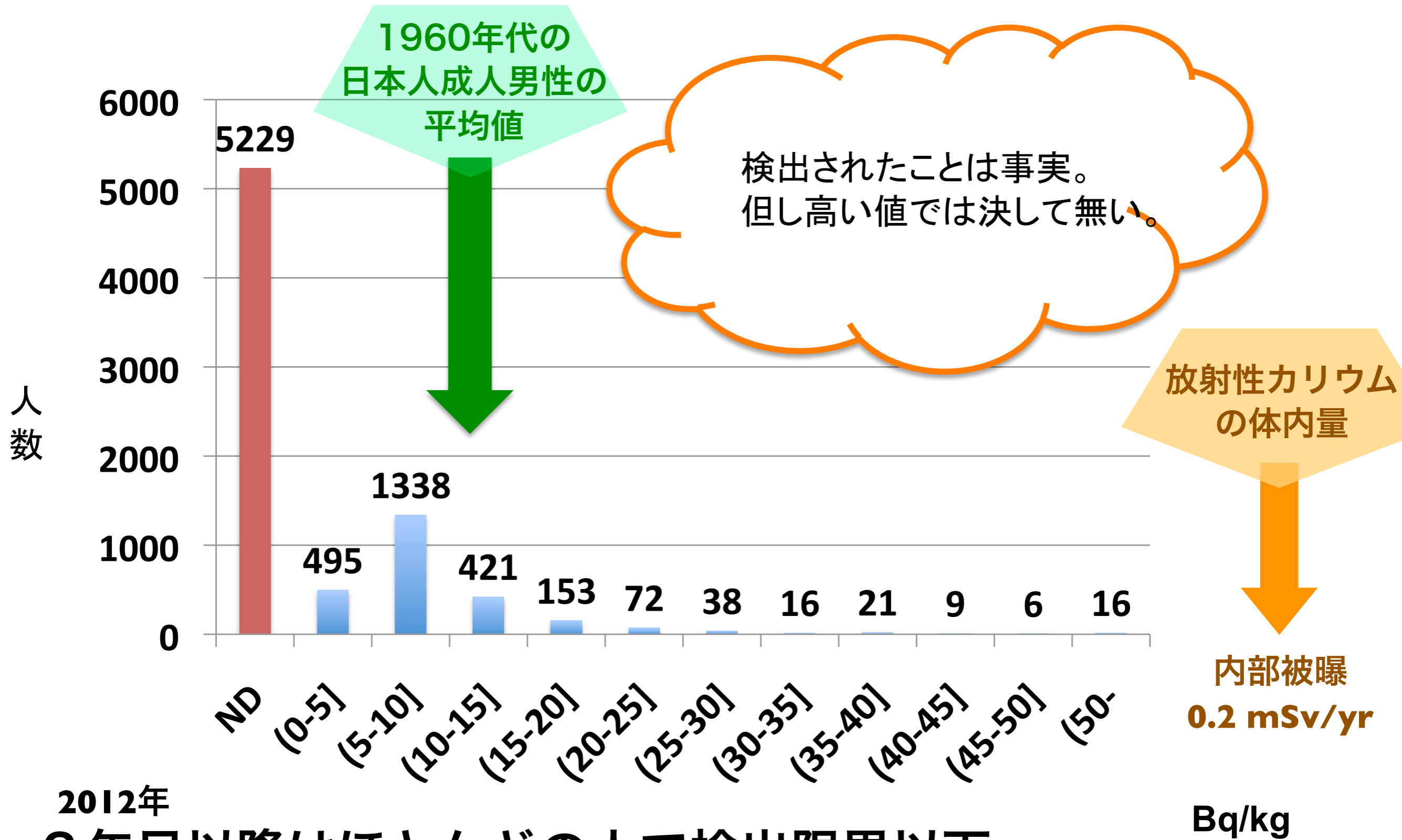
## WBC による体内放射能の測定

ホールボディーカウンター





# 南相馬市立総合病院で計測したセシウム137体内放射能量別被験者数 2011/9/26～2012/3/31施行 (7814人) 高校生以上+成人対象

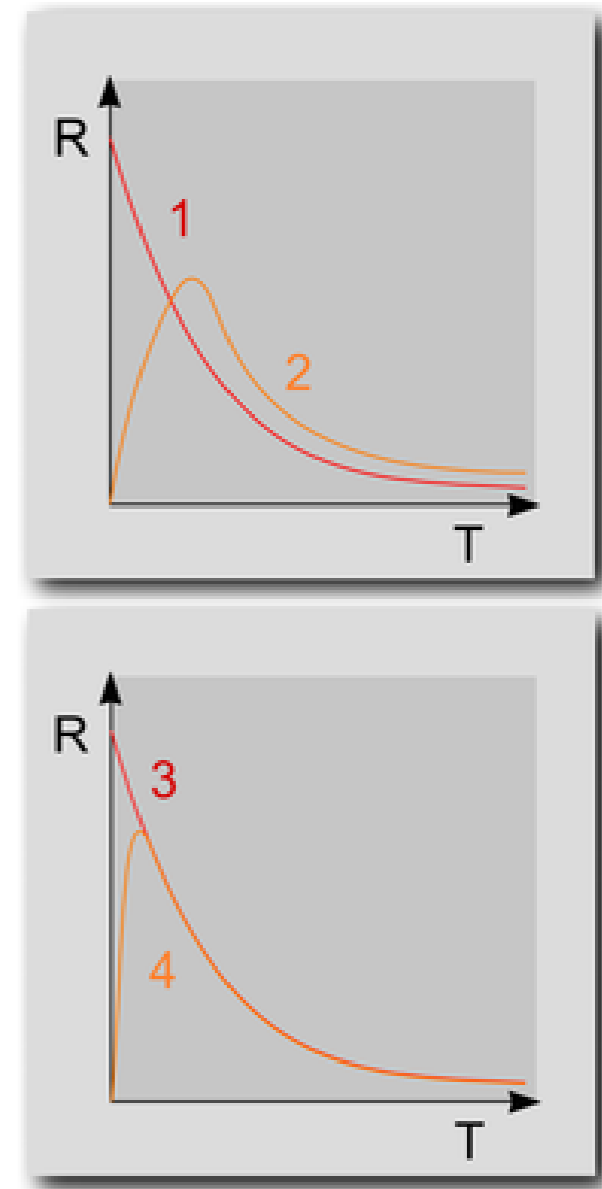
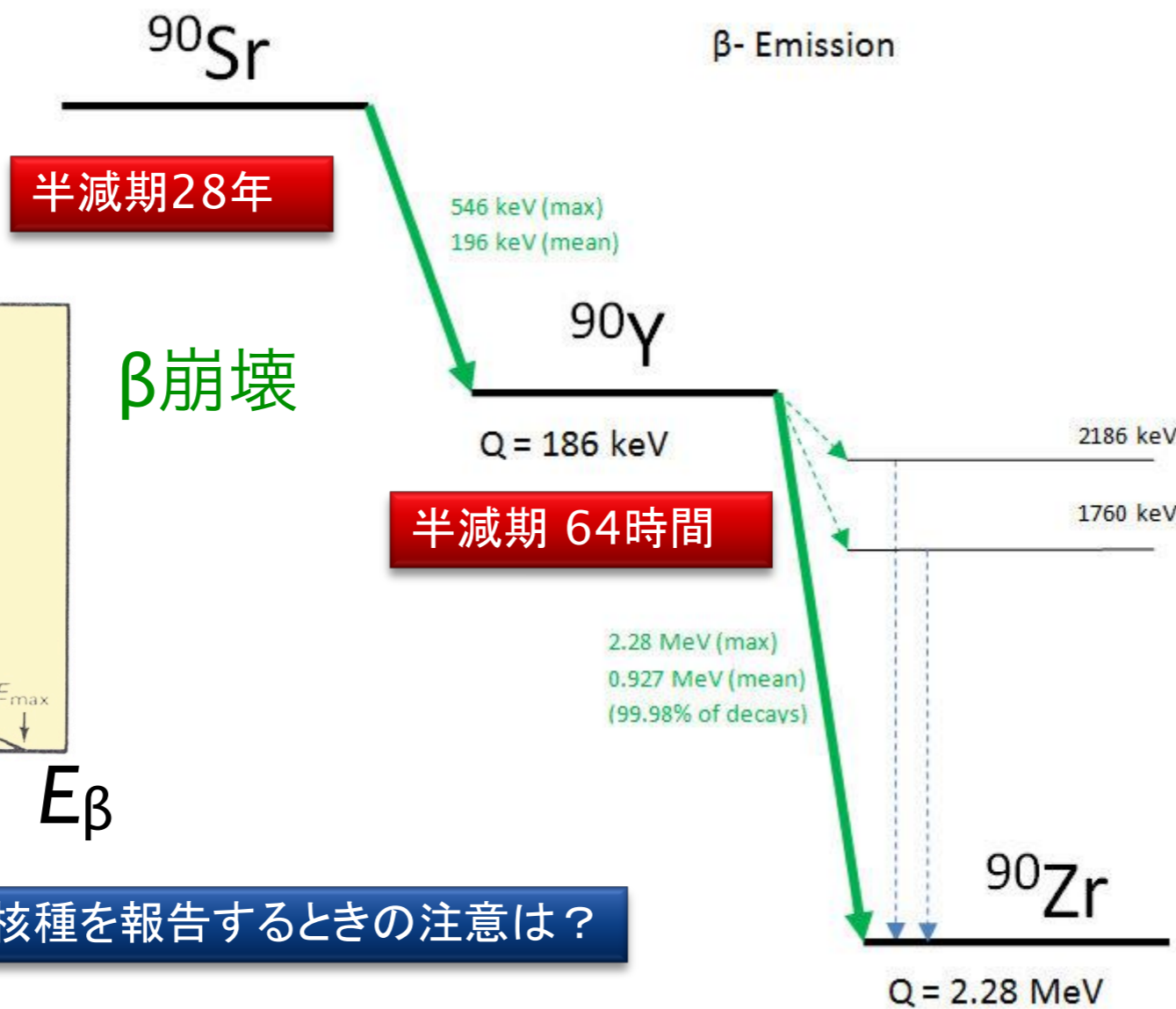
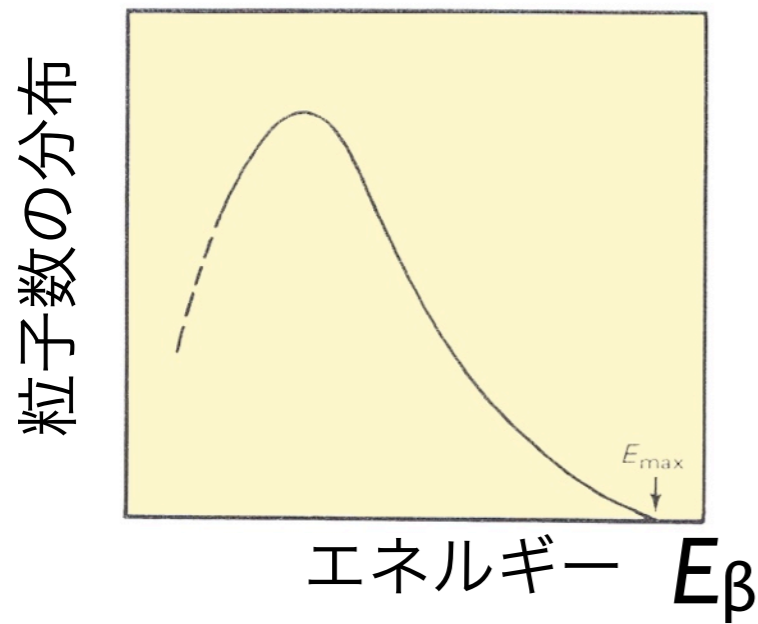


2012年  
2年目以降はほとんどの人で検出限界以下。

# β崩壊核種の同定 (γ線を出さないもの)

化学分離が必須

例 :  $^{89}, ^{90}\text{Sr}$



α崩壊核種の同定 ➡ アルファスペクトロメトリ

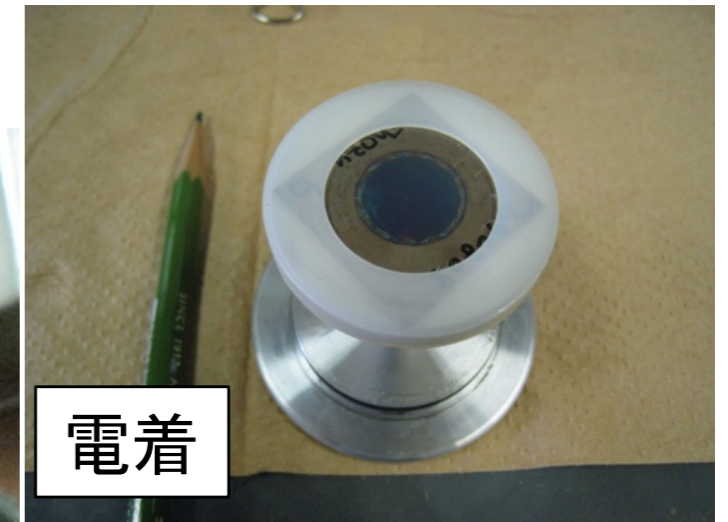
例 :  $^{238}, ^{239}, ^{241}\text{Pu}$



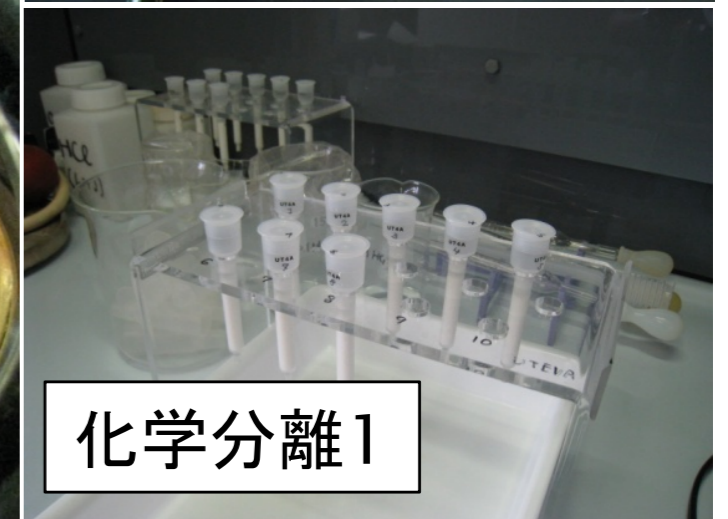
# アルファ線の測定装置

U, Th, Pu, Am, Cm...はこれ!

## ▶ アルファスペクトロメトリ



電着



化学分離1



化学分離2

分析はものすごく大変。

ターゲット元素を化学分離 → 精製 → 電着(線源を作る) →  $\alpha$ 線計測



# 線量計 (個人線量計、環境放射線測定)

フリック線量計 Fricke dosimeter



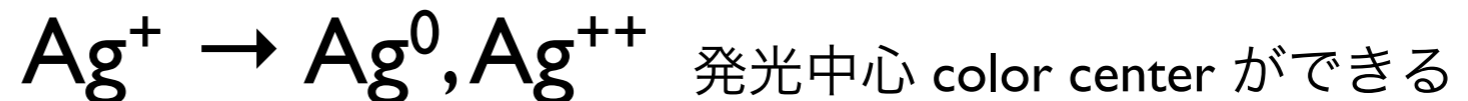
熱ルミネッセンス線量計 TLD: thermoluminescence dosimeter

蛍石などの固体結晶 + 放射線  $\rightarrow$  (加熱)  $\rightarrow$  蛍光

電子・正孔が格子欠陥に捕えられる

蛍光ガラス線量計 glass badge (RPL: radio-photoluminescence)

銀活性リン酸塩ガラス + 放射線  $\rightarrow$  (紫外線)  $\rightarrow$  蛍光



ガラス線量計: コバルトガラス  $\rightarrow$  発光中心 (着色)

光刺激ルミネッセンス線量計 OSL: optically stimulated luminescence

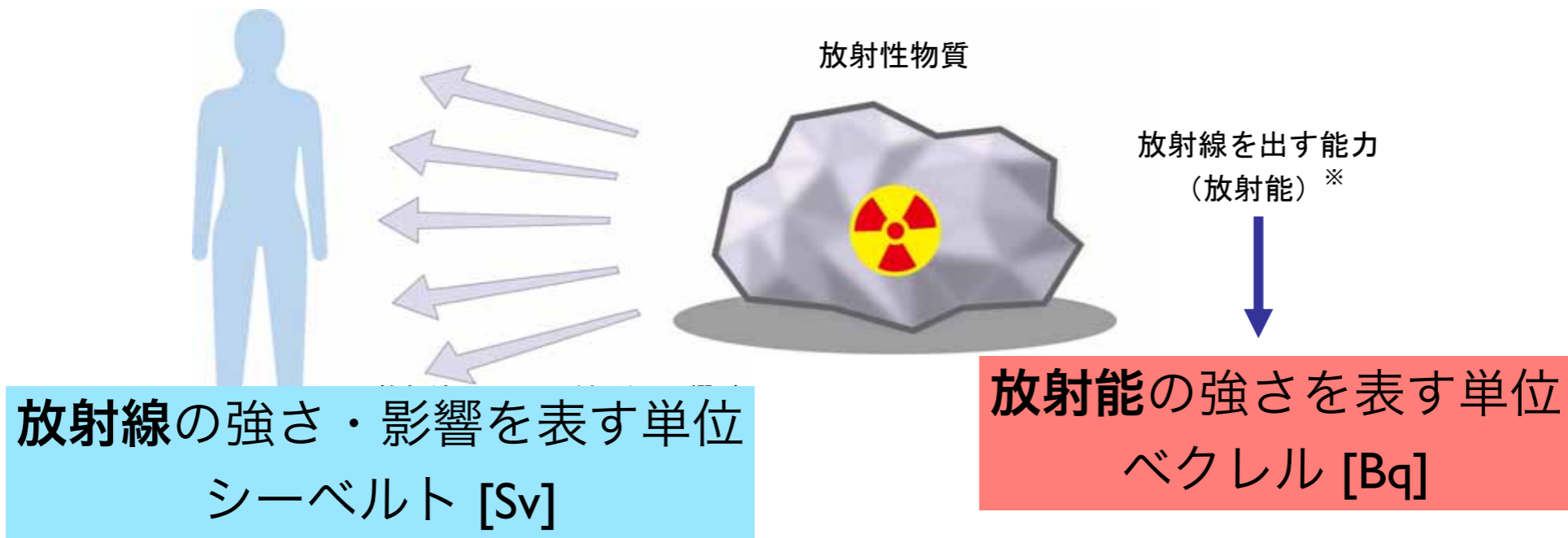
ポケット線量計: 電離箱、半導体検出器

フィルムバッジ: 銀塩写真フィルム AgBr





# 放射線の単位



## 放射線量の単位

グレイ

吸収線量  $D [J / kg] = [Gy]$

等価線量  $H_T [J / kg] = [Sv]$  シーベルト

実効線量  $E [J / kg] = [Sv]$  シーベルト

## 放射能の単位

放射能の強さ [Bq]  
ベクレル

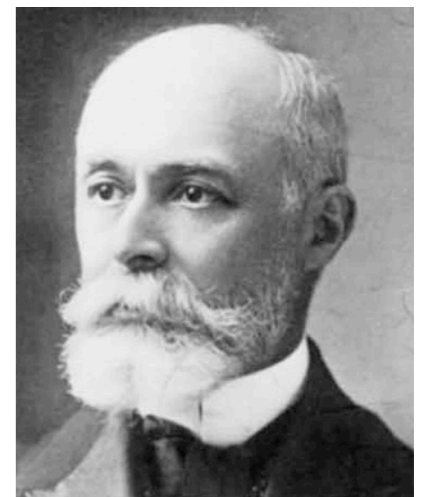
Gray



Sievert



Becquerel





# 放射線量の単位

放射場には

多様なエネルギーの

多種放射線（光子、粒子線）が

様々な方向を向いて飛び交い、

それぞれの強度で存在している。

これをひとつの物理量で表すのは  
一筋縄ではいかない。

様々な放射線量の単位が存在する。

# 放射線量の単位



Röntgen



Gray

## 放射計測量 radiometric quantity

粒子フルエンス fluence  $\Phi$  [ $\text{cm}^{-2}$ ]

エネルギーフルエンス energy fluence  $\Psi$  [ $\text{MeV cm}^{-2}$ ]

## 線量計測量 dosimetric quantity : エネルギー変換

カーマ kerma (Kinetic Energy Released in MAterial / MAtter) 非荷電粒子線  $K$  [ $\text{J} / \text{kg}$ ] = [ $\text{Gy}$ ]

シーマ cema (Charged particle Energy imparted to MAtter) 荷電粒子線  $C$  [ $\text{J} / \text{kg}$ ] = [ $\text{Gy}$ ]

照射線量 光子 (X線・γ線)  $X$  [ $\text{C}/\text{kg}$ ], [ $\text{R}$ ] | R  $\approx 2.58 \times 10^{-4}$  C/kg

## 線量計測量 dosimetric quantity : エネルギー付与

吸収線量  $D$  [ $\text{J} / \text{kg}$ ] = [ $\text{Gy}$ ], [ $\text{erg} / \text{g}$ ] = [ $\text{ram}$ ] | Gy = 100 ram



# 放射線量の単位

radiation dose

- 物質が吸収したエネルギー（単位質量あたり）

吸収線量  $D$  [J / kg] = [Gy] グレイ

Gray

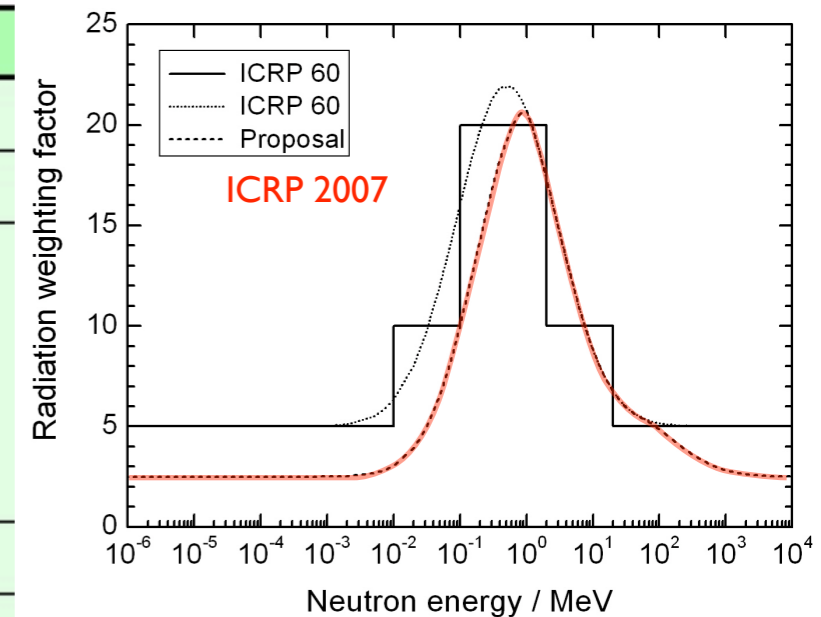


- 放射線の種類による生物学的影響の違いを考慮

等価線量  $H_T = W_R \times D$  [Sv] シーベルト

放射線加重係数  $W_R$

放射線の種類・エネルギーの範囲	放射線加重係数: $W_R$	
光子(X線・γ線); 全てのエネルギー	1	1
電子(β線)およびミュー粒子; 全てのエネルギー	1	1
中性子; 10keV 以下	5	右図を参照
10keV~100keV	10	
100keV~2MeV	20	
2MeV~20 MeV	10	
20MeV以上	5	
反跳陽子以外の陽子; エネルギー 2MeV 以上	5	2 (正負パイオンも)
アルファ粒子(α線)	20	20
核分裂片	20	20
重原子核	20	20



[出典] 日本アイソトープ協会:ICRP Pub 60、国際放射線防護委員会の1990年勧告、丸善、p7(1991)

赤字 ICRP 2007

- 全身被曝での影響に換算（臓器ごとに組織加重係数  $w_T$  をかけて合算）

実効線量  $E = \sum_T w_T \times H_T$  [Sv] シーベルト

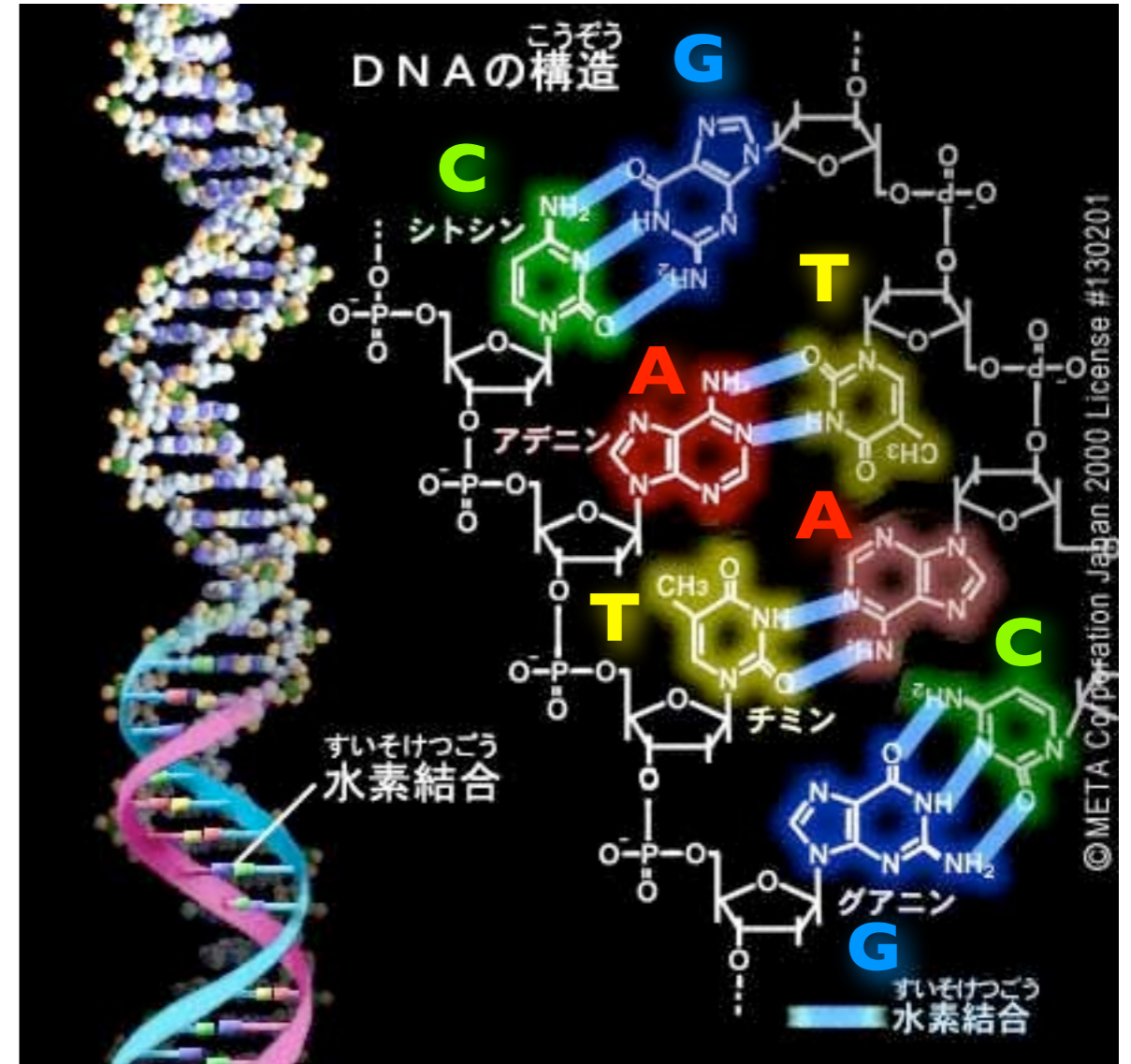
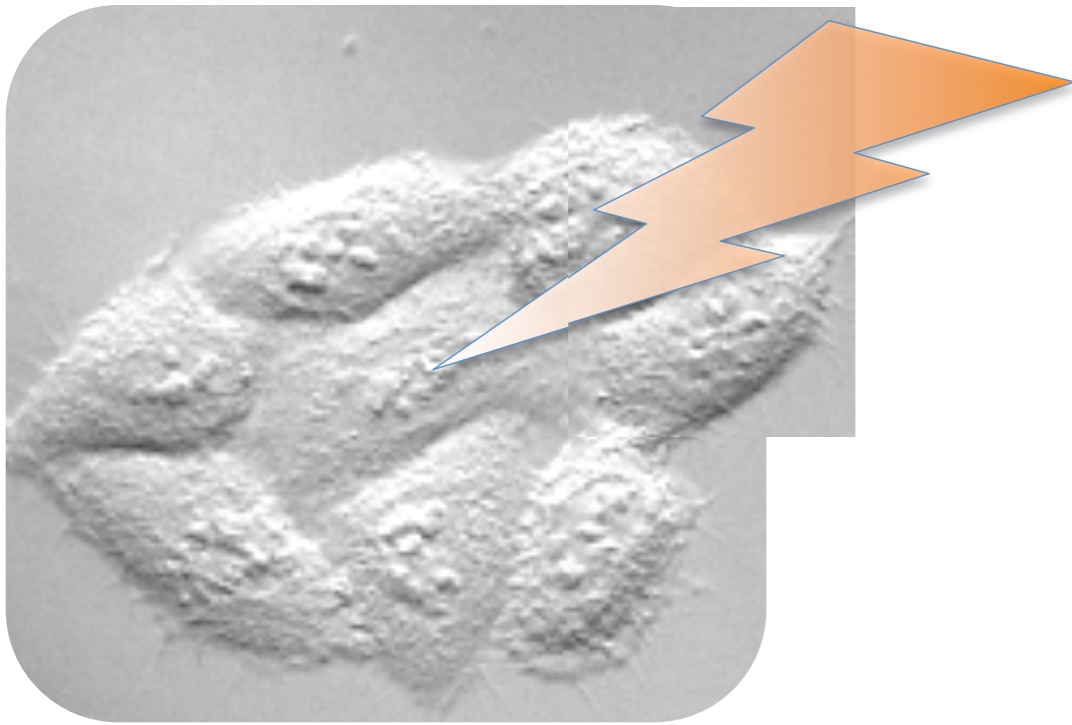
Sievert





# 細胞の核に放射線が照射

## DNA



出典：IPA「教育用画像素材集サイト」 <http://www2.edu.ipa.go.jp/gz/>

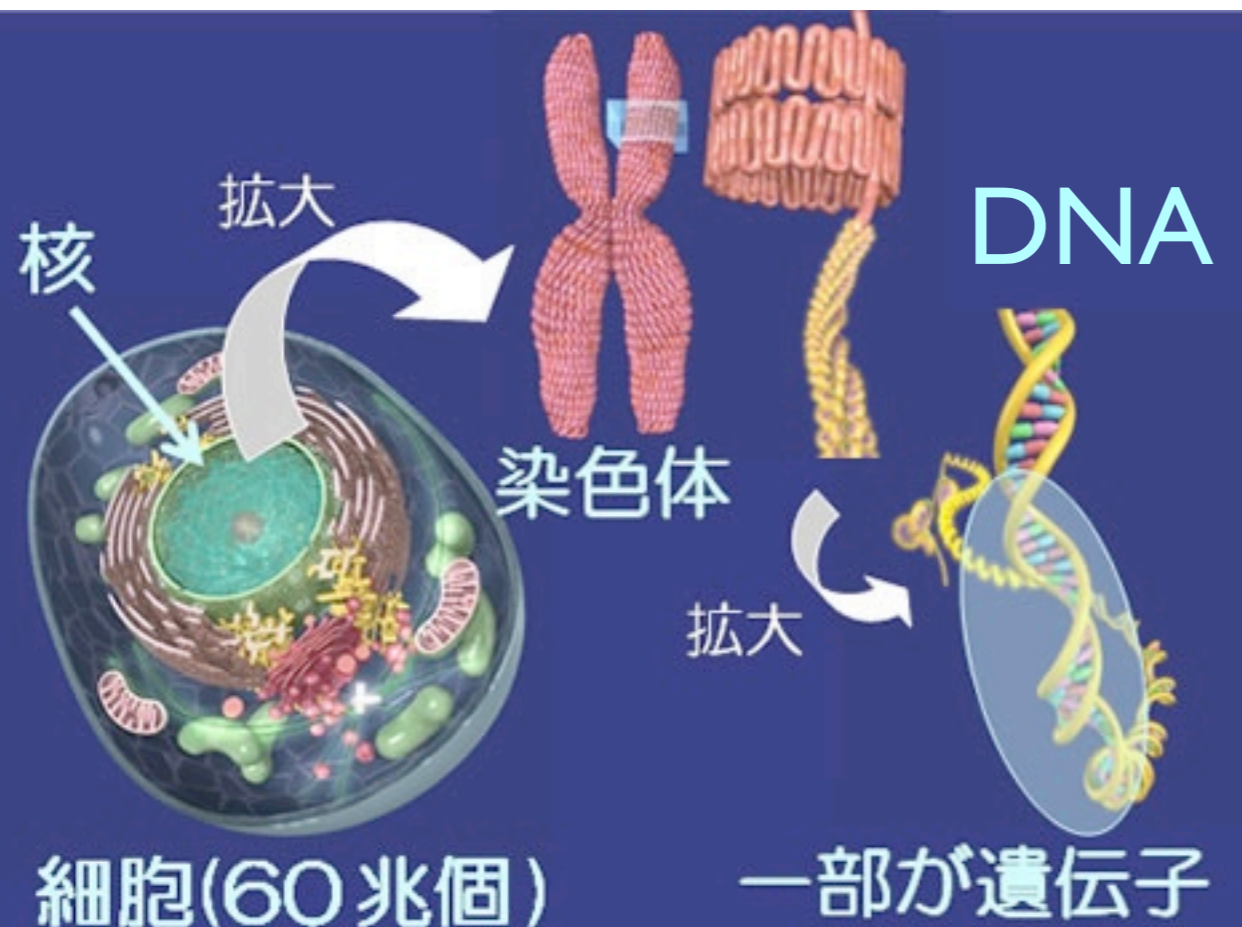
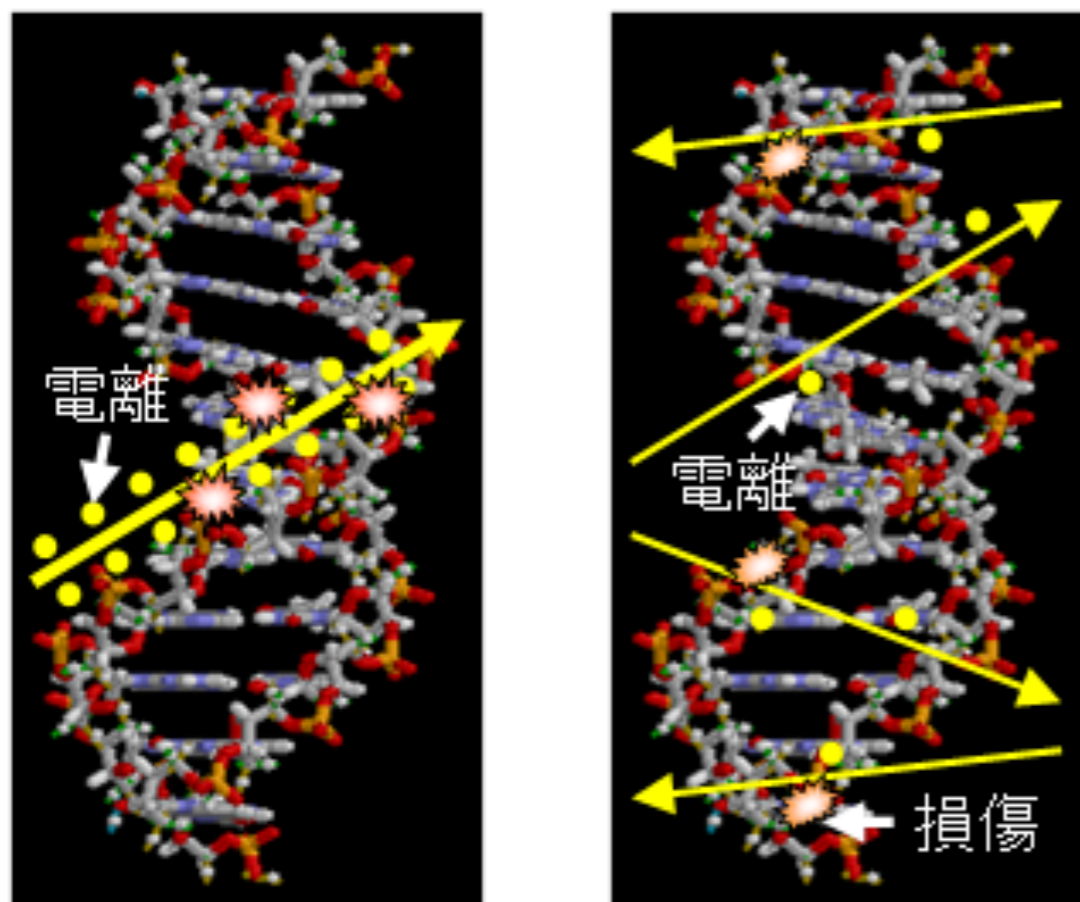


図1 核、染色体、遺伝子



# 放射線による DNA 損傷

**ラジカル  
(活性酸素)**



重イオン

電子

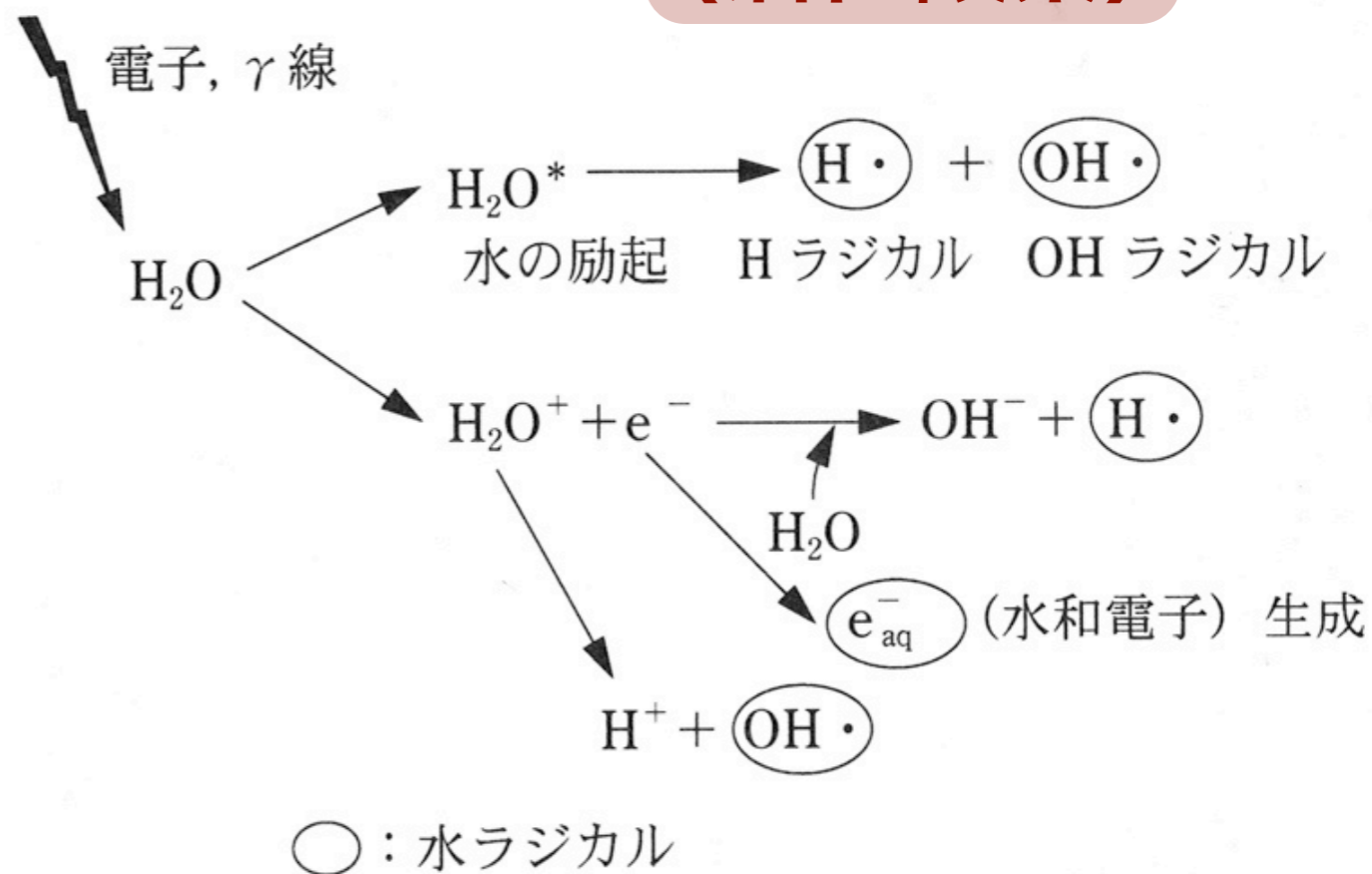


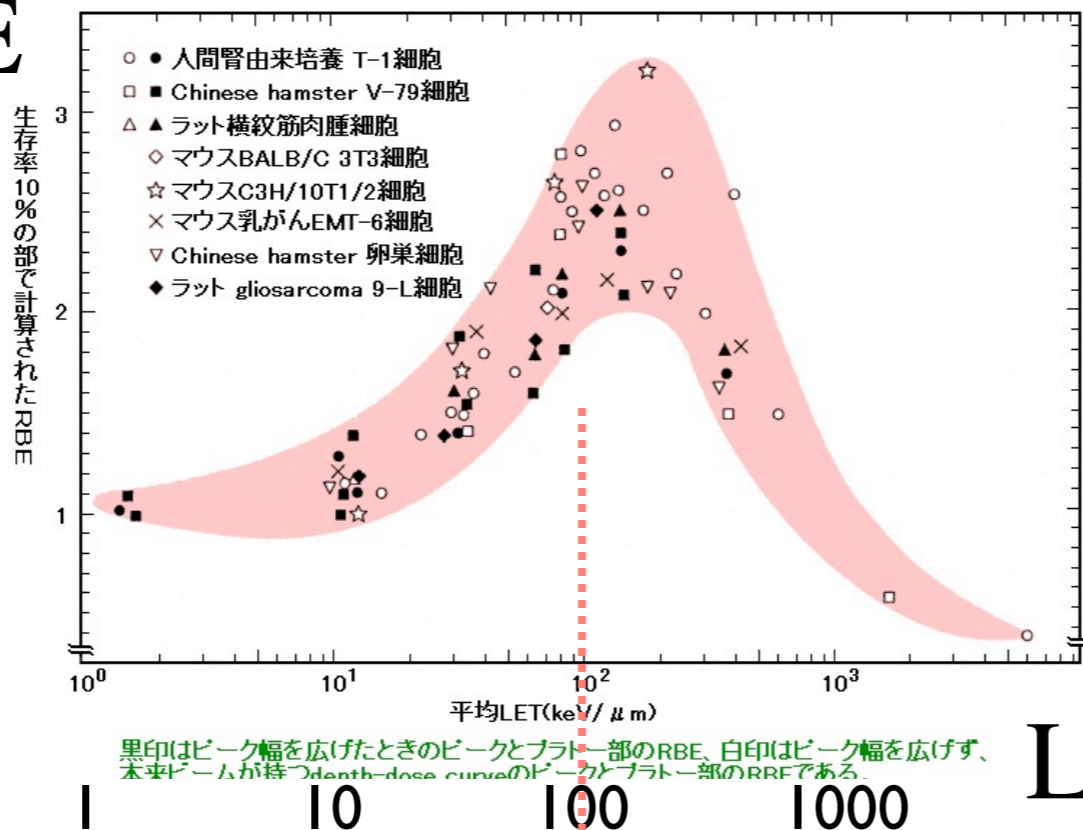
図 6・5 電離放射線による水分子の電離と励起の概略  
(書籍「図解 放射性同位元素等取扱者必携」オーム社、より引用)

## LET：線エネルギー付与

放射線の直接作用：荷電粒子が直接 DNA 分子を叩く **高 LET 放射線**  
 $\alpha$ 線

と間接作用：水の電離で生じるラジカルが DNA 分子に作用  
**低 LET 放射線**  
 $\beta$ 線,  $\gamma$ 線

# RBE



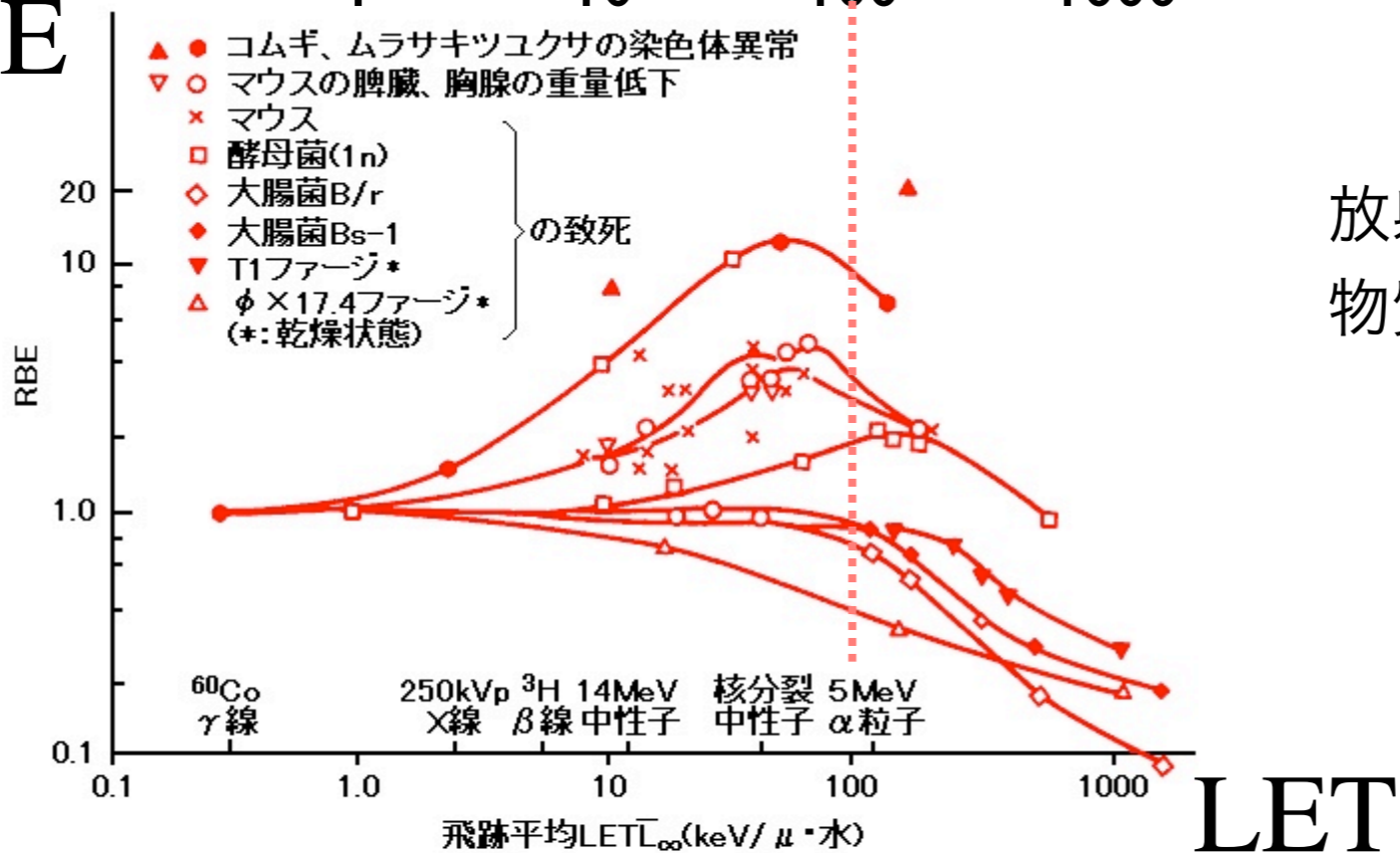
# 生物学的効果比 RBE

(Relative Biological Effectiveness)

LET (線エネルギー付与)  
keV/μm

放射線の軌跡上の単位長さ当たり  
物質に与えられるエネルギー

# RBE



様々な生物反応(マウスの臓器の重量低下や致死、高等植物の染色体異常等)において、いずれも約80keV/μm付近のLET値をもつ放射線が最大のRBE値を示す。

図2 体細胞的効果に対する各種放射線のRBEとLETの関係

[出典]近藤 宗平:分子放射線生物学、東京大学出版会(1972年)、p.174



# 実効線量 effective dose $E [J / kg] = [Sv]$

$$E = \sum_T w_T \times H_T = \sum_T w_T \times \left( \sum_R w_R \times D_{T,R} \right)$$

組織  $T$  の組織加重係数

組織  $T$  における  
等価線量 [Sv]

組織  $T$  における  
平均吸収線量 [Gy]

器官・組織	組織加重係数: $w_T$	
生殖腺	0.20	0.08
骨髄(赤色)	0.12	0.12
結腸	0.12	0.12
肺	0.12	0.12
胃	0.12	0.12
膀胱	0.05	0.04
乳房	0.05	0.12
肝臓	0.05	0.04
食道	0.05	0.04
甲状腺	0.05	0.04
皮膚	0.01	0.01
骨表面	0.01	0.01
脳		0.01
唾液腺		0.01
残りの器官・組織 <sup>※2</sup>	0.05	0.12
合計(全身)	1.00	1.00

左欄黒字 ICRP 1990

右欄赤字 ICRP 2007

# 線量計算

内部被曝と外部被曝



# 放射線の種類と被ばく

- **$\alpha$ 線**は空気中の飛程が数 **cm**。  
生体では**表層**の細胞で止まる。  
**内部被ばくが問題**。全てのエネルギーが短い飛程の間に細胞に与えられる。
- **$\beta$ 線**は外部被ばくでは**皮膚**への影響を考える。**内部被ばくも問題**。
- **$\gamma$ 線**は多くは相互作用（光電効果・コンプトン散乱）せず**体を素通り**し、一部が体内で吸収される。外部被ばくでも体内も被ばくする。
- **X線**の場合も吸収されるエネルギーは何割か程度。

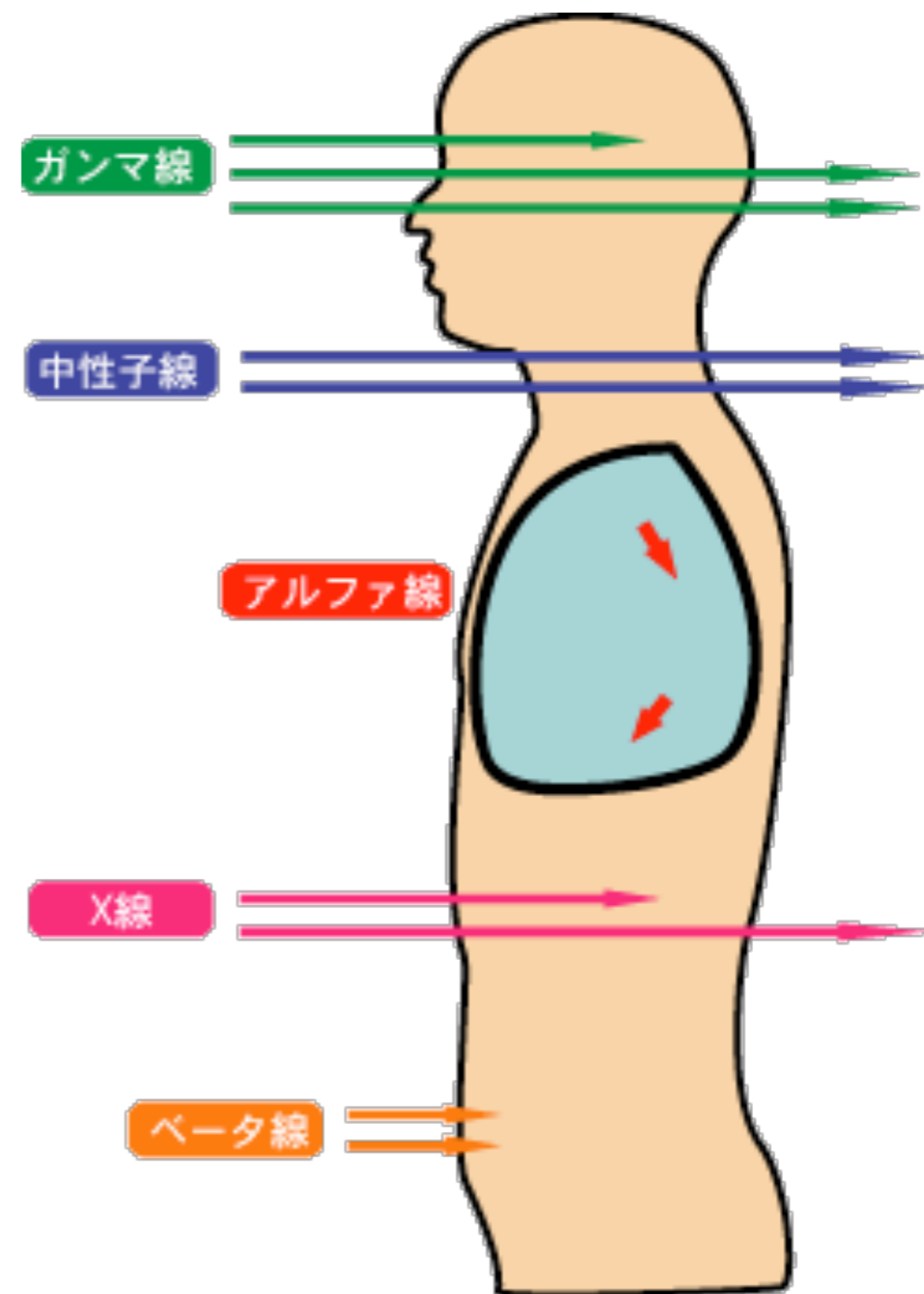
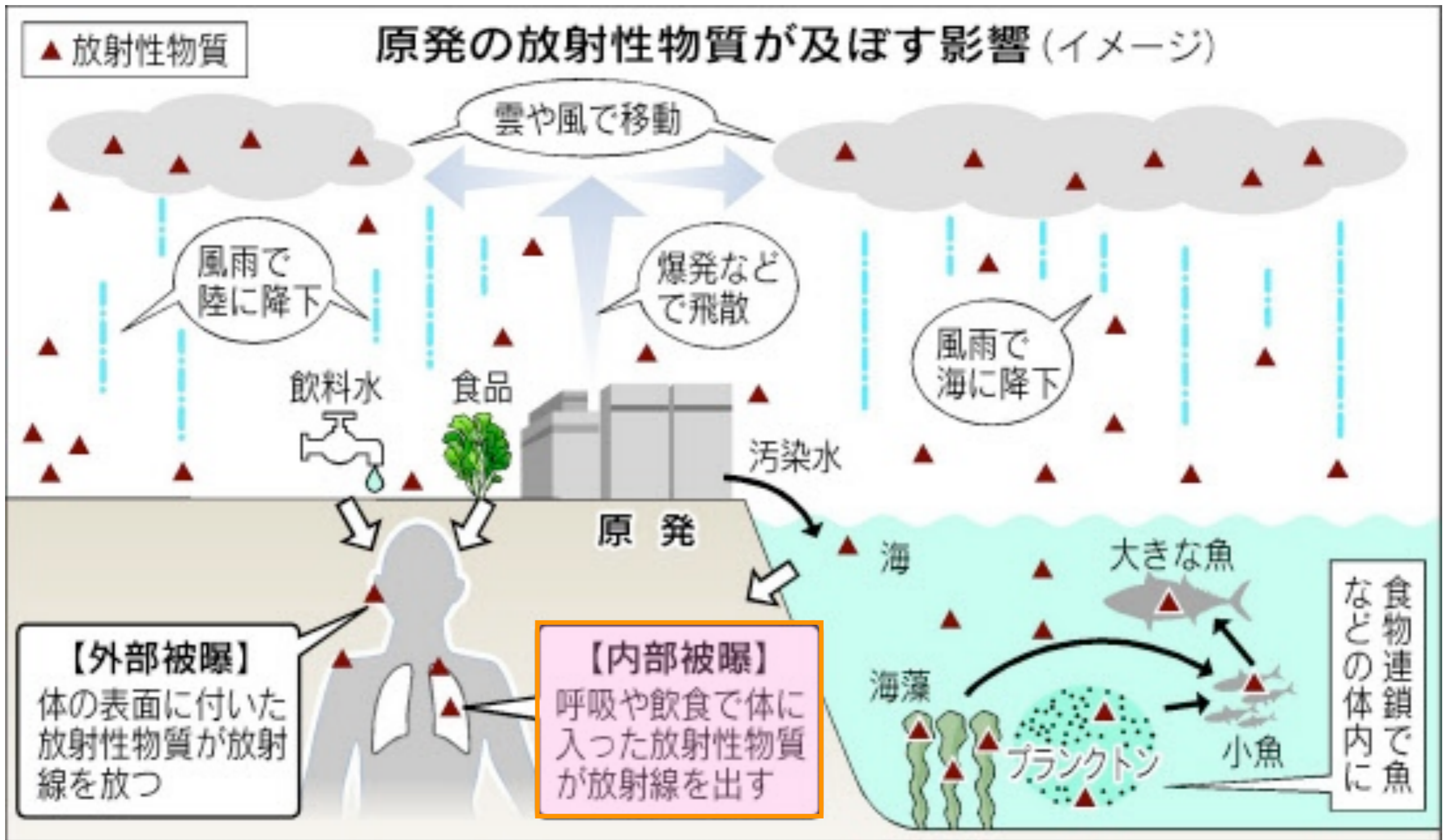


図3 人体を透過する放射線



放射性物質が一部東京まで飛来。  
放射線が直接東京に届いたのではない。



# 内部被曝

放射性物質を体内に取り込むことにより、**体の内部から放射線に被曝すること。**

放射性物質を**体内に取り込まない**ことは放射線防護の鉄則。

**放射線防護服**（ $\gamma$ 線を遮ることはできない）

放射性物質が皮膚や服に付着し、あるいは経口摂取してしまうことを防ぐ。

一般に**被曝が継続**するため、注意が必要。

- 物理学的半減期
- 生物学的半減期（体内からの排出）

**預託線量**を計算して、被曝期間を通じてのトータルの線量が同じであれば、外部被曝とも影響は同じ。



# 内部被曝の計算例

(<sup>131</sup>I による甲状腺預託線量)

放射線防護のための線量 **protection quantity**

預託線量 **committed dose** (内部被曝) [Sv]

預託等価線量

預託実効線量

体内摂取した放射性物質から出るすべての放射線を、摂取した時点で被曝したと見なして計算をする。Bq から Sv への換算には、物理学的半減期のみならず排泄機能による生物学的半減期も考慮のうえ、50年間分の積分をする。

実効線量係数 (成人)

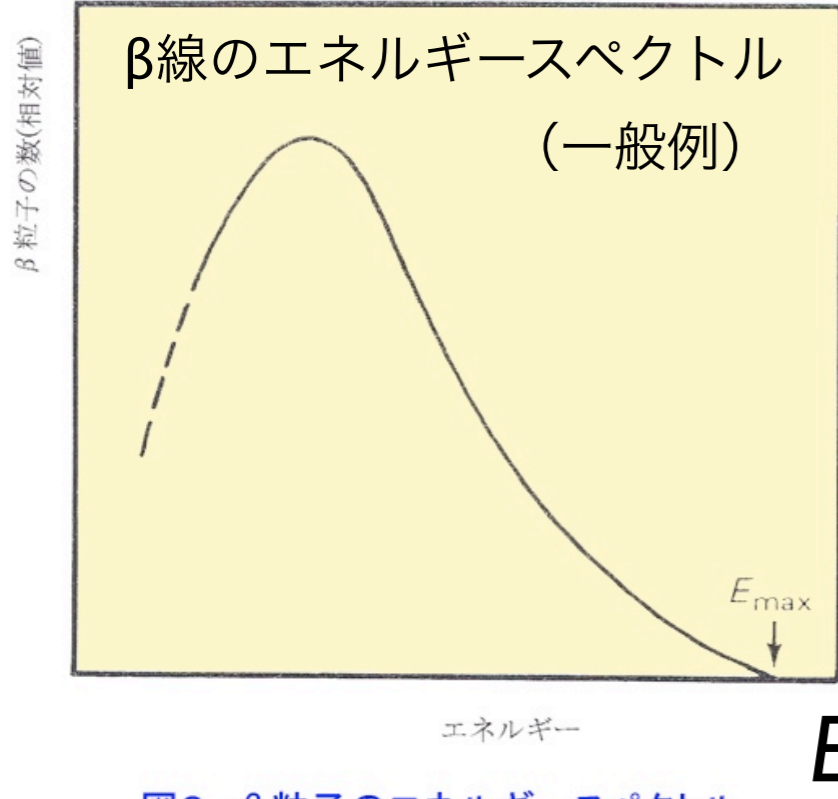
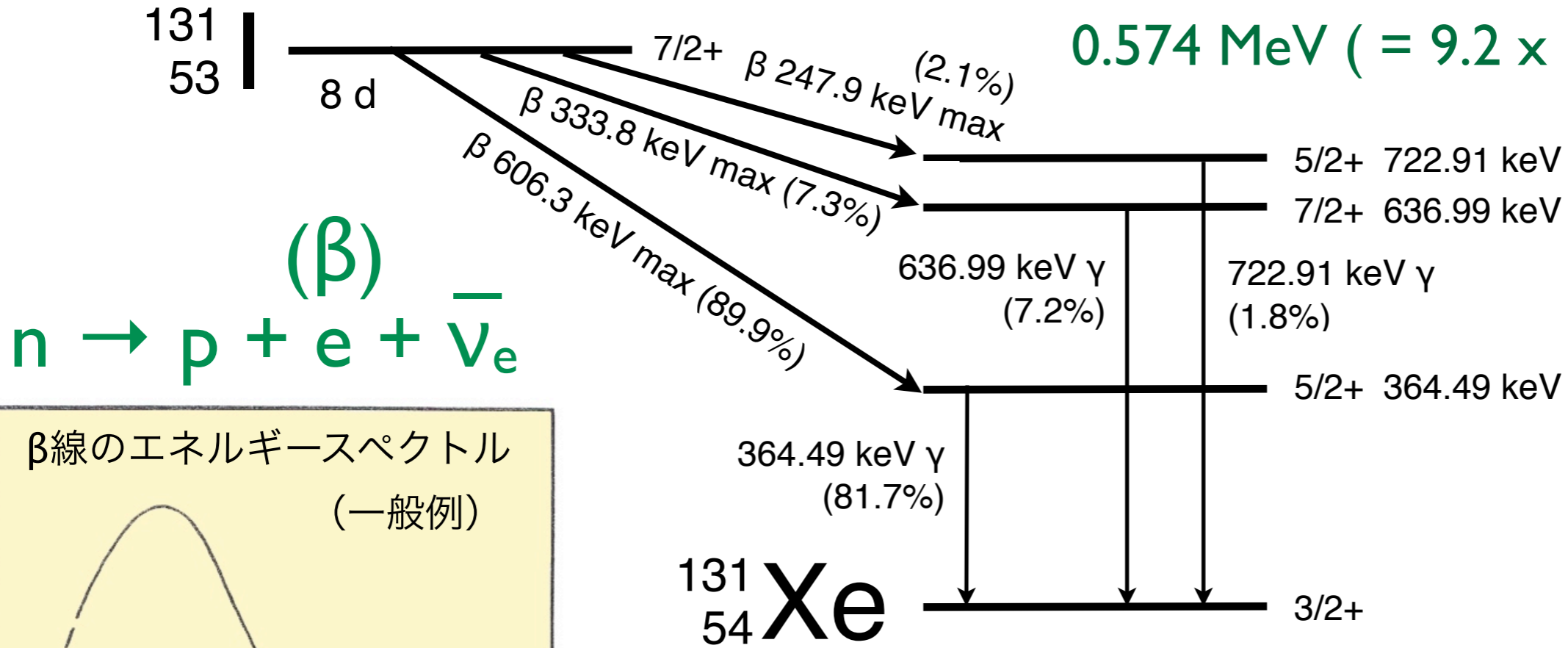
※ 子供や乳幼児は 70歳になるまでの期間

核種	半減期	経口摂取 (Sv/Bq)	吸入摂取 (Sv/Bq)
C-14	5730年	$5.8 \times 10^{-10}$	$5.8 \times 10^{-9}$
P-32	14.3日	$2.4 \times 10^{-9}$	$3.4 \times 10^{-9}$
K-40	12.8億年	$6.2 \times 10^{-9}$	$2.1 \times 10^{-9}$
I-131	8.04日	$2.2 \times 10^{-8}$	$7.4 \times 10^{-9}$
Sr-90	29.1年	$2.8 \times 10^{-8}$	$1.6 \times 10^{-7}$
Cs-137	30.0年	$1.3 \times 10^{-8}$	$3.9 \times 10^{-8}$

経口摂取	乳児 (3ヶ月)	幼児 (1歳)	子供 (2-7歳)	成人
I-131	$1.8 \times 10^{-7}$	$1.8 \times 10^{-7}$	$1.0 \times 10^{-7}$	$2.2 \times 10^{-8}$



β線の最大エネルギーの平均値  
 0.574 MeV (= 9.2 x 10<sup>-14</sup> J)



γ線：原子核の脱励起



γ線 (定まったエネルギー)

図2 β粒子のエネルギースペクトル  
 [出典]石川友清(編):初級放射線、通商産業研究社、p.37

β線 (連続スペクトル)  
 エネルギーの平均値 ~ 0.3 MeV


# 内部被曝

臓器親和性 (Cs, I, Sr, Pu, ...)

生物学的半減期

**WBC** (遮蔽・周辺の高いバックグラウンド)

給食検査／陰膳検査

毎日 1 Bq の放射性セシウムを摂取し続けたときの  
体内残留量は？   $1 \text{ Bq/d} \times 100 \text{ d} / \ln 2 = 140 \text{ Bq}$

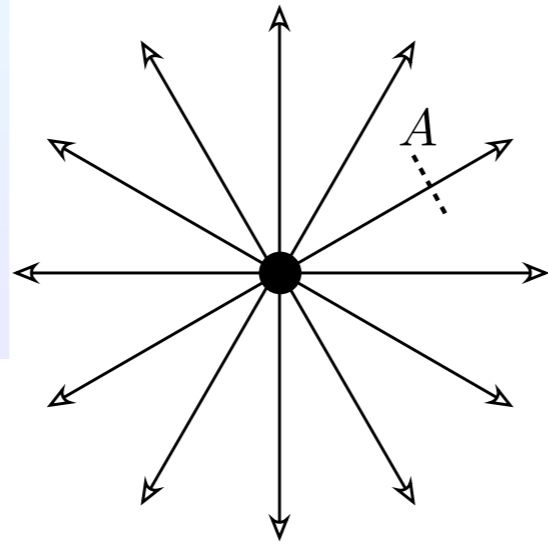
カリウムの場合は？   $90 \text{ Bq/d} \times 30 \text{ d} / \ln 2 = 4000 \text{ Bq}$

Cs-134+137 (全身内部被曝)

I-131 (甲状腺初期内部被曝)



# 外部被曝 の線量計算



$\dot{\Phi}$  : 粒子フルエンス率

$$\dot{\Phi} = \frac{e^{-\mu^{\text{air}} r} \eta P}{4\pi r^2}$$

$$\eta = 0.851$$

$\gamma$ 線の放出率

$P$  : 放射能 [Bq]

$\mu^{\text{air}} = 0.0100 \text{ m}^{-1}$  空気の線減衰定数

$\dot{H}$  : 等価線量率 [Sv/s]

$^{137}\text{Cs}$   $\gamma$ 線は空气中 70 m で半減する。

$$\dot{H}/\dot{\Phi} = h\nu (\mu_{\text{en}}/\rho)^{\text{water}} = 3.5 \times 10^{-16} \text{ Sv m}^2$$

$(\mu_{\text{en}}/\rho)^{\text{water}} = 0.033 (\text{g/cm}^2)^{-1}$  水の質量エネルギー吸収係数

## 平面が一様に放射性物質で汚染されている場合

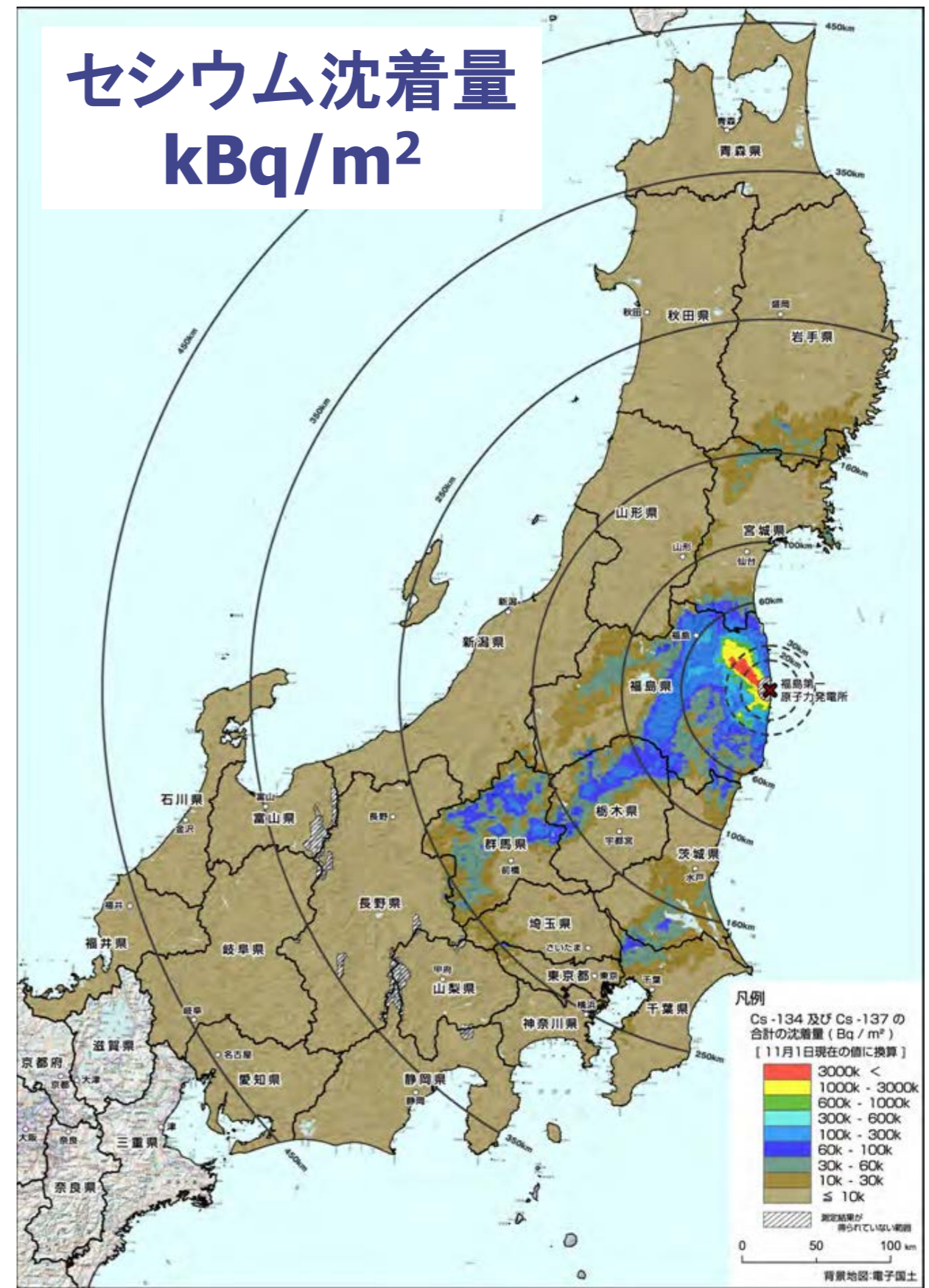
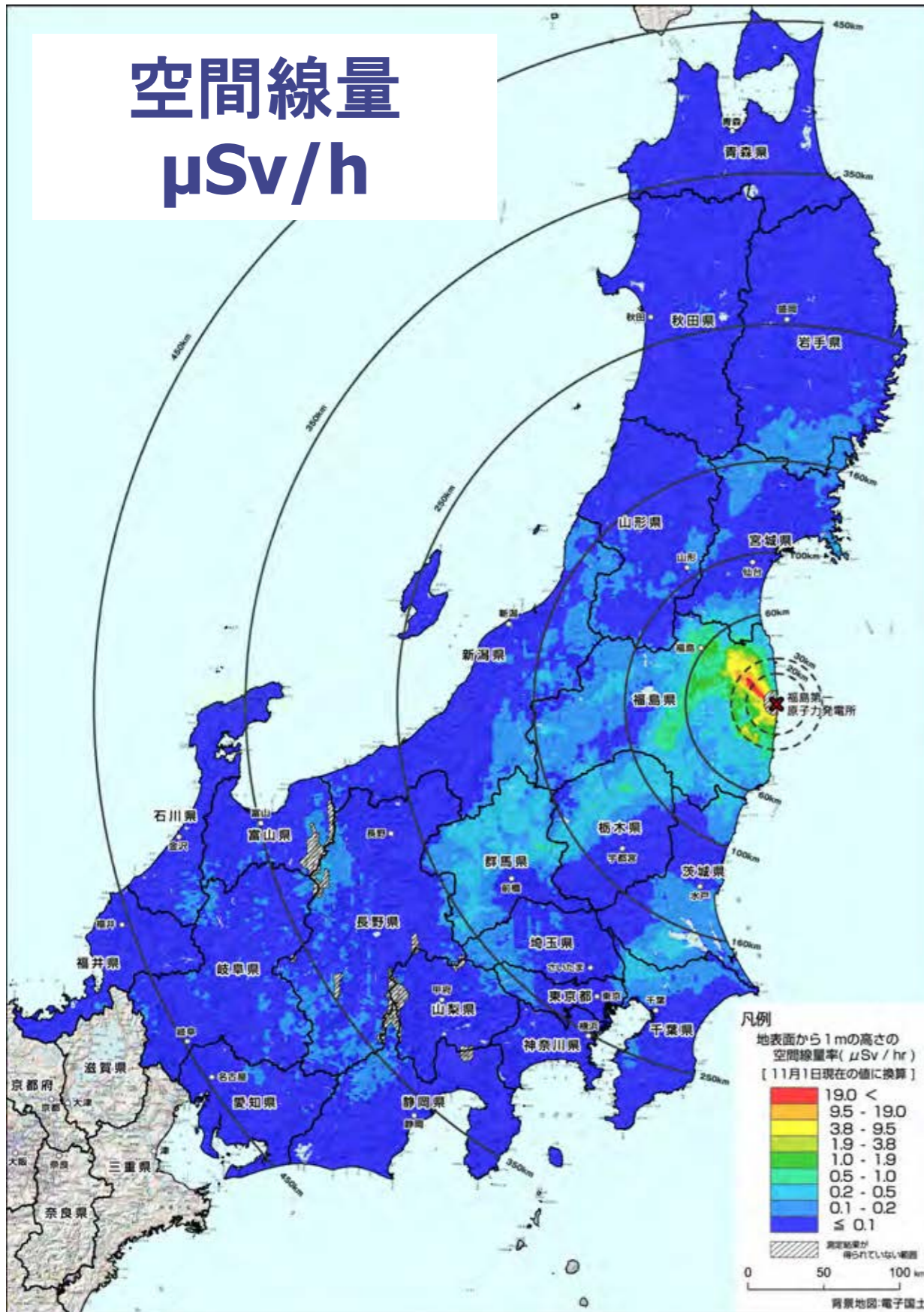
$^{137}\text{Cs}$  : 2.1 ( $\mu\text{Sv/h}$ ) / ( $\text{MBq/m}^2$ ) .... IAEA による値

高さ 1 m でも 50 cm でもさして違くない

遮るものがない平地の場合、半径 10 m だけ除染しても線量は半分も減らない。半径 100 m からの寄与が効く。

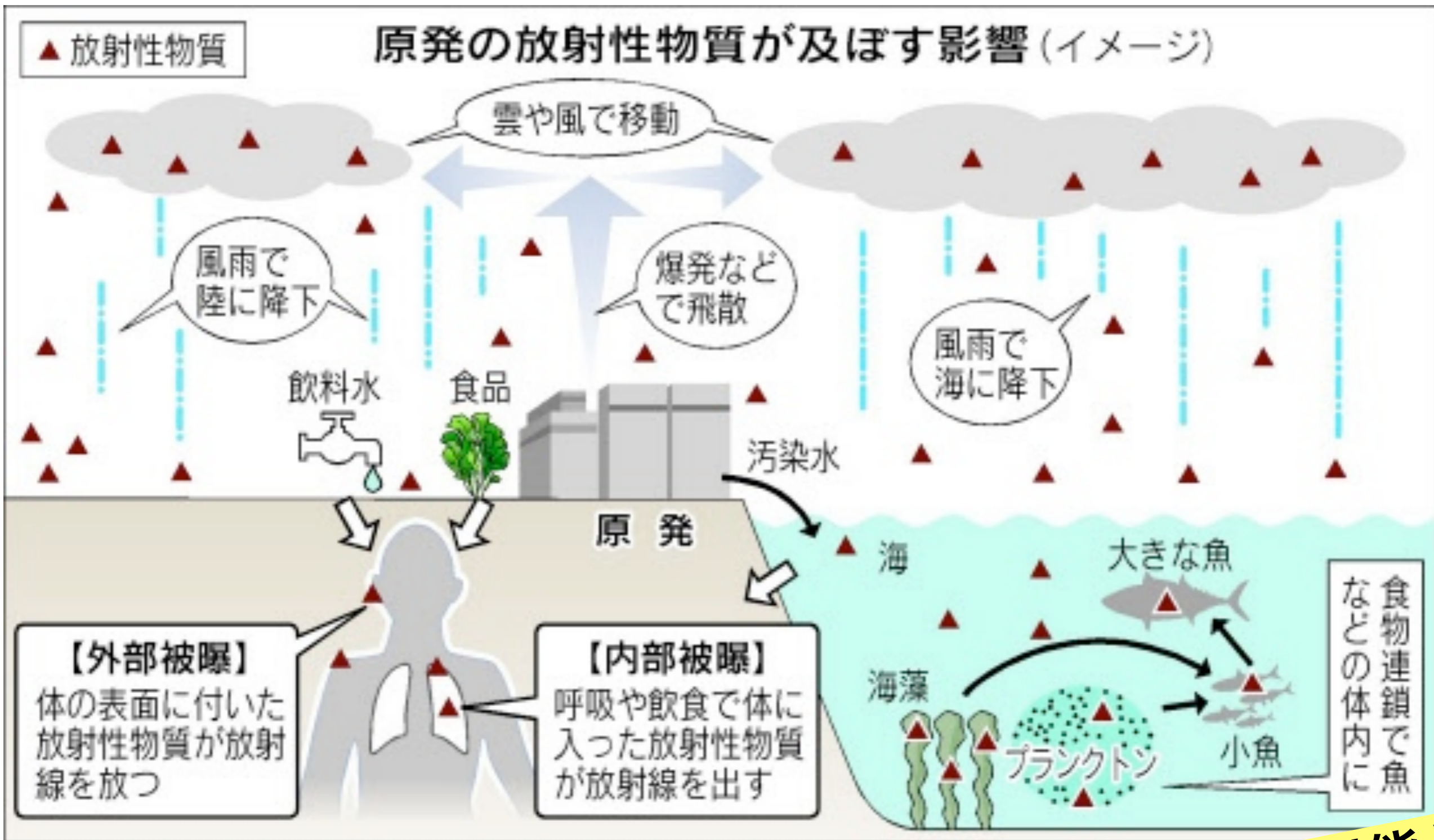


# 文部科学省の航空機モニタリングによる広域汚染マップ





# 環境放射化学



放射性物質が一部東京まで飛来。  
放射線が直接東京に届いたのではない

放射性物質、放射能と  
放射線を混同しない



# 原発北西方向の汚染と「ホットスポット」

(東京大学教養学部 小豆川勝見先生のスライドより借用)

福島第一原発から漏れた放射能の広がり  
Radiation contour map  
of the Fukushima Daiichi accident

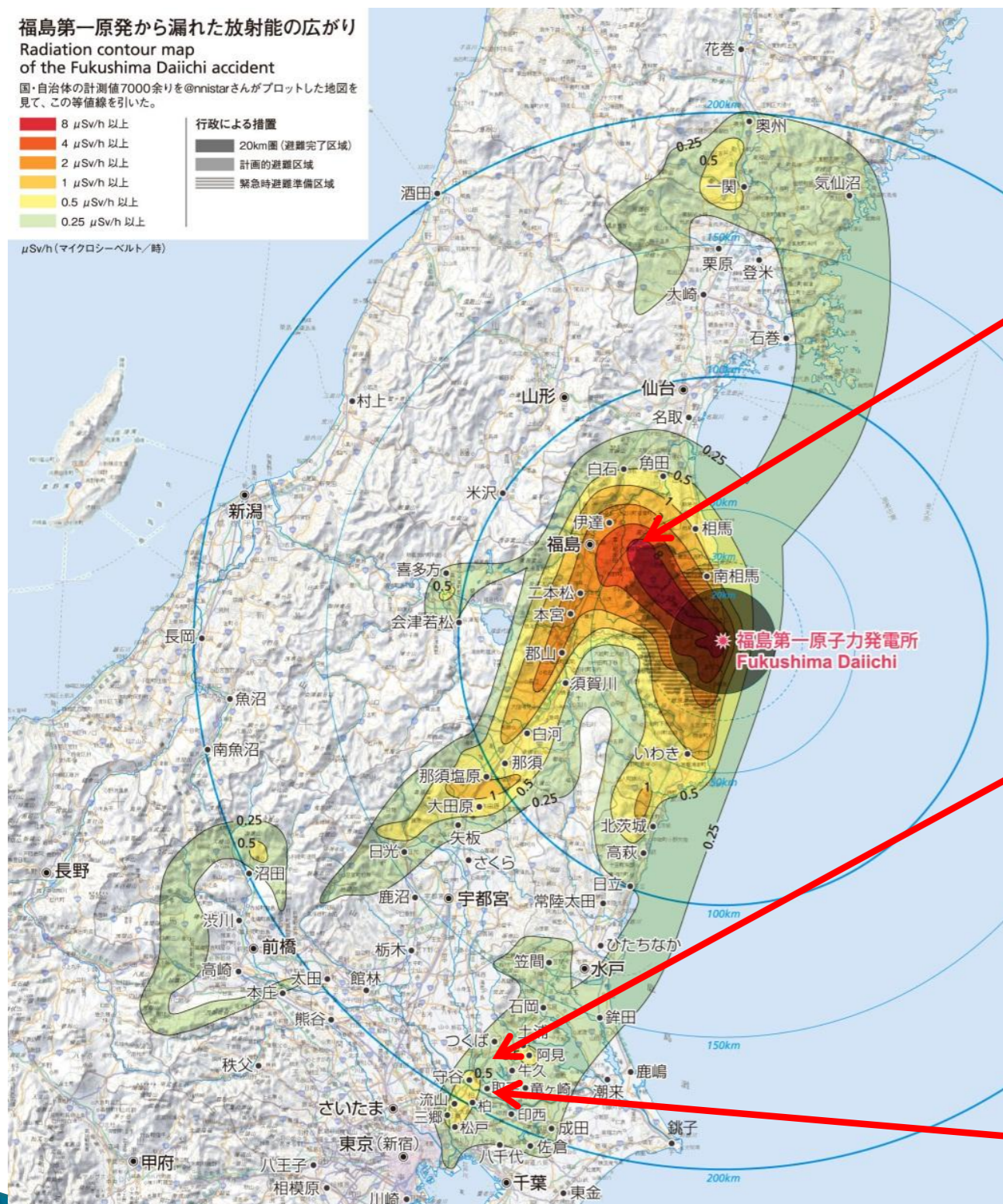
国・自治体の計測値7000余りを@nnistarさんがプロットした地図を見て、この等値線を引いた。

- 8  $\mu\text{Sv/h}$  以上
- 4  $\mu\text{Sv/h}$  以上
- 2  $\mu\text{Sv/h}$  以上
- 1  $\mu\text{Sv/h}$  以上
- 0.5  $\mu\text{Sv/h}$  以上
- 0.25  $\mu\text{Sv/h}$  以上

行政による措置

- 20km圏 (避難完了区域)
- 計画的避難区域
- 緊急時避難準備区域

$\mu\text{Sv/h}$  (マイクロシーベルト/時)



早川由紀夫教授(群馬大学)作成、7月26日版

三訂版7月26日(初版4月21日)  
等値線作成: 早川由紀夫(群馬大学) (kipuka.blog70.fc2.com/  
@nnistarさんの地図 (www.nnistar.com/gmap/fukushima.html)  
Contour lines drawn by Yukio Hayakawa (Gunma Univ.),  
Source: @nnistar  
地図製図: 萩原佐知子  
背景地図には電子国土ポータル (portal.cyberjapan.jp) の地図を使用しました。



# 原発北西方向の汚染と「ホットスポット」

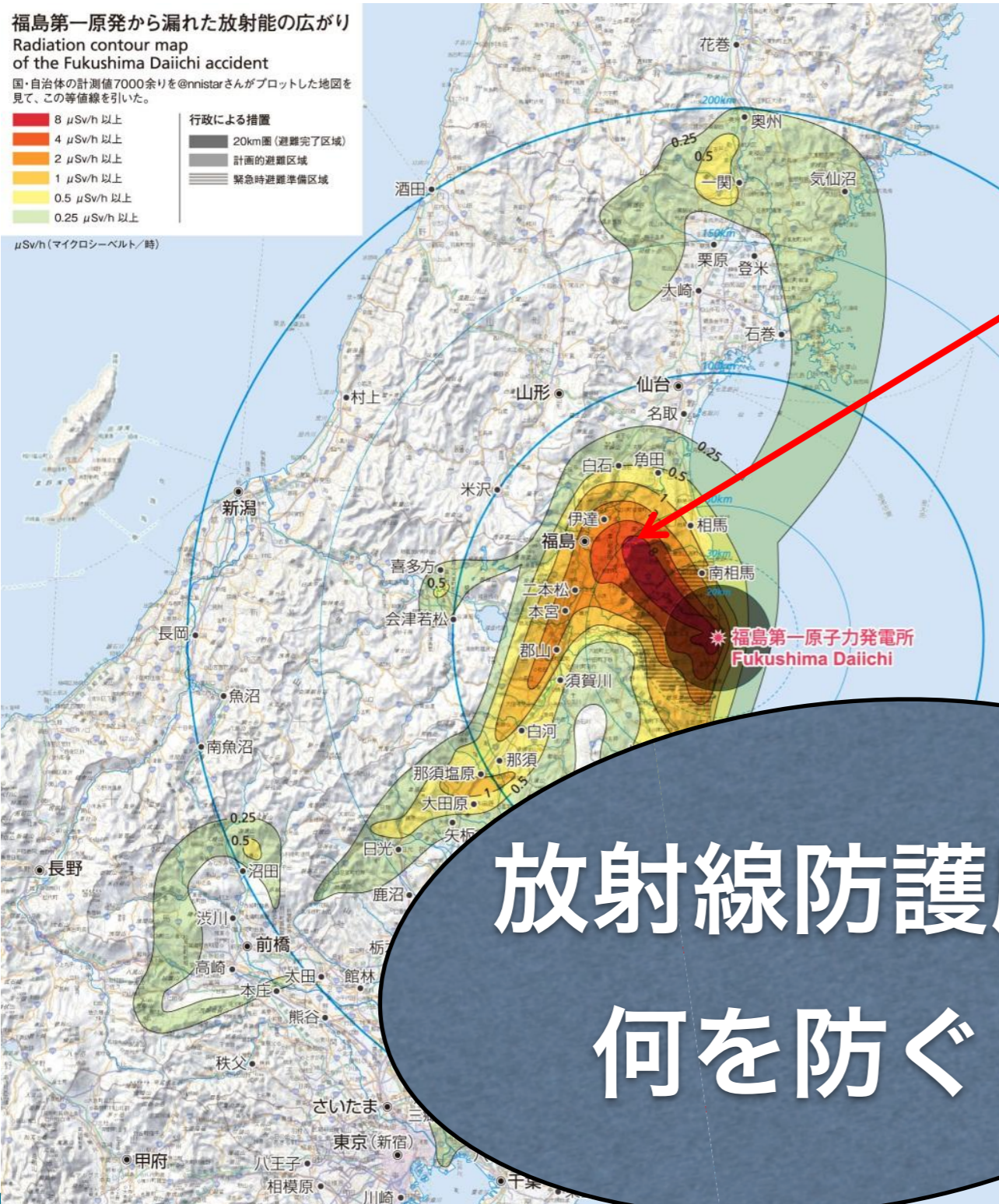
福島第一原発から漏れた放射能の広がり  
Radiation contour map  
of the Fukushima Daiichi accident

国・自治体の計測値7000余りを@nnistarさんがプロットした地図を見て、この等値線を引いた。

- 8  $\mu\text{Sv/h}$  以上
- 4  $\mu\text{Sv/h}$  以上
- 2  $\mu\text{Sv/h}$  以上
- 1  $\mu\text{Sv/h}$  以上
- 0.5  $\mu\text{Sv/h}$  以上
- 0.25  $\mu\text{Sv/h}$  以上

- 行政による措置
- 20km圏 (避難完了区域)
  - 計画的避難区域
  - 緊急時避難準備区域

$\mu\text{Sv/h}$  (マイクロシーベルト/時)



放射線防護服は  
何を防ぐ？



早川由紀夫教授(群馬大学)作成、7月26日版

三訂版7月26日(初版4月21日)  
等値線作成: 早川由紀夫(群馬大学) (kipuka.blog70.fc2.com/)  
@nnistarさんの地図 (www.nnistar.com/gmap/fukushima.html)  
Contour lines drawn by Yukio Hayakawa (Gunma Univ.),  
Source: @nnistar  
地図製図: 萩原佐知子  
背景地図には電子国土ポータル(portal.cyberjapan.jp)の地図を使用しました。



# 原発北西方向の汚染と「ホットスポット」



放射線防護服は  
何を防ぐ？

早川由紀夫教授(群馬大学)作成、7月26日版

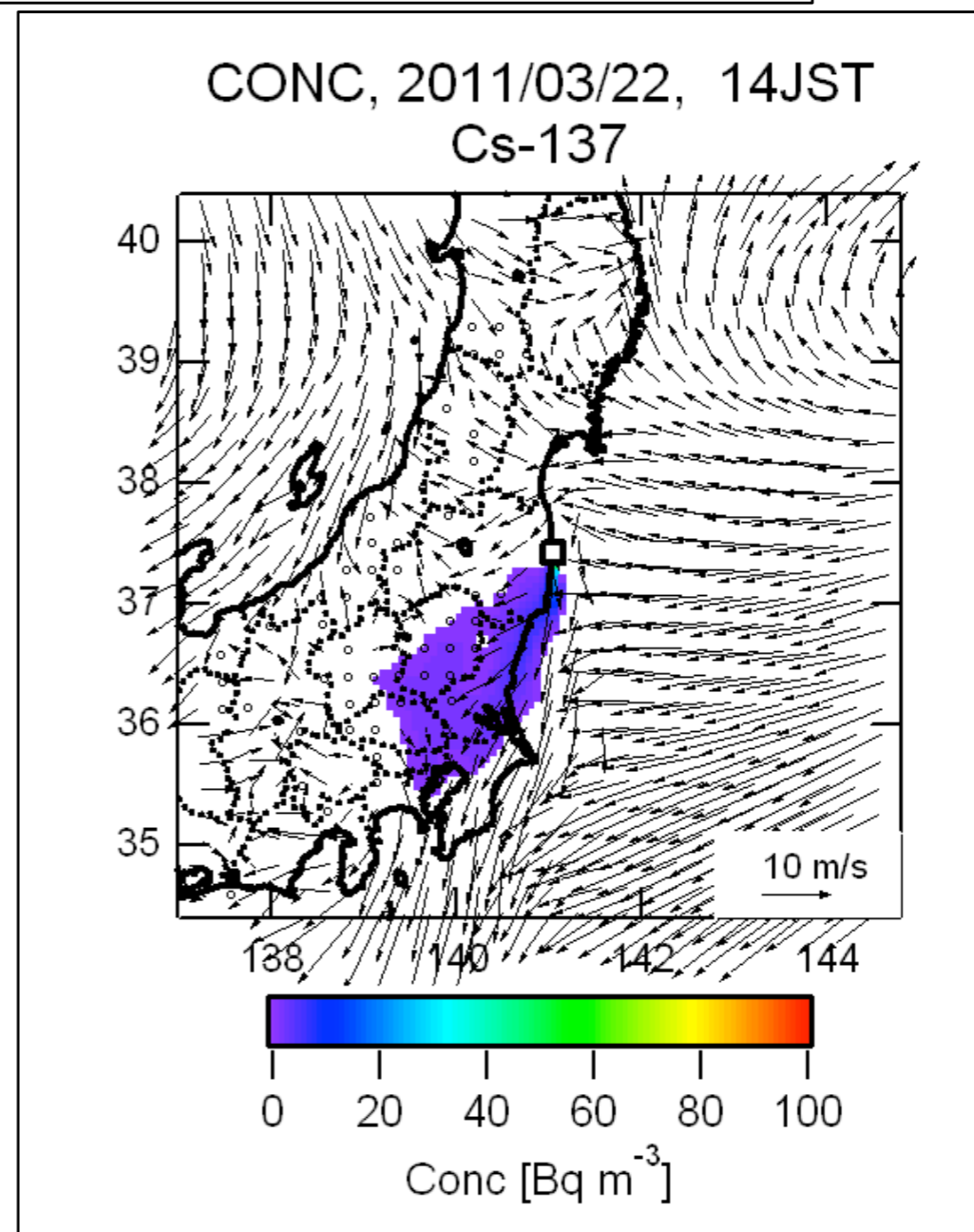
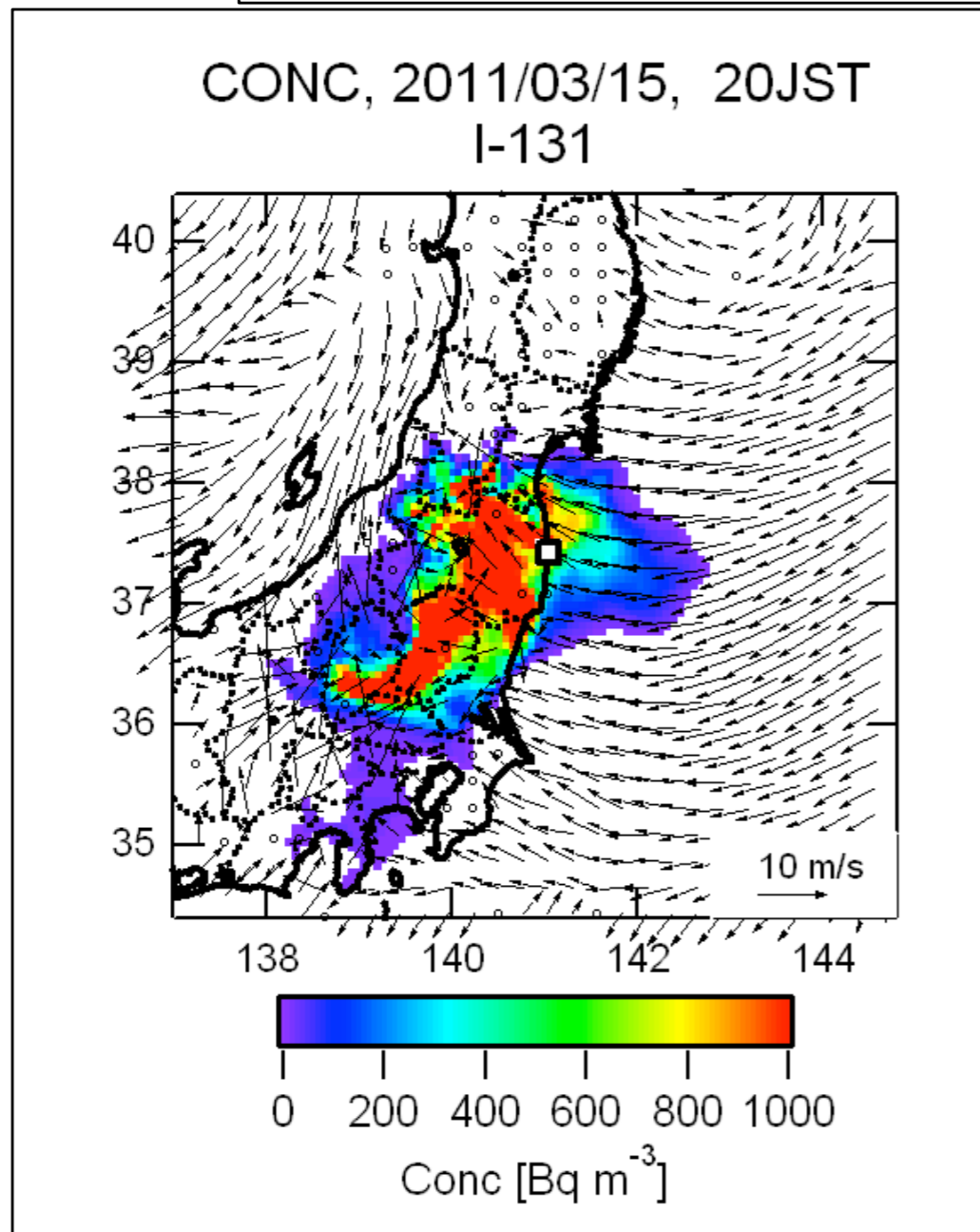


三訂版7月26日(初版4月21日)  
等値線作成: 早川由紀夫(群馬大学) (kipuka.blog70.fc2.com/  
@nnistarさんの地図 (www.nnistar.com/gmap/fukushima.html)  
Contour lines drawn by Yukio Hayakawa (Gunma Univ.),  
Source: @nnistar  
地図製図: 萩原佐知子  
背景地図には電子国土ポータル(portal.cyberjapan.jp)の地図を使用しました。



# 拡散シミュレーションと実際に観測された放射能の差違

2011年8月25日付 国立環境研究所 報道発表資料



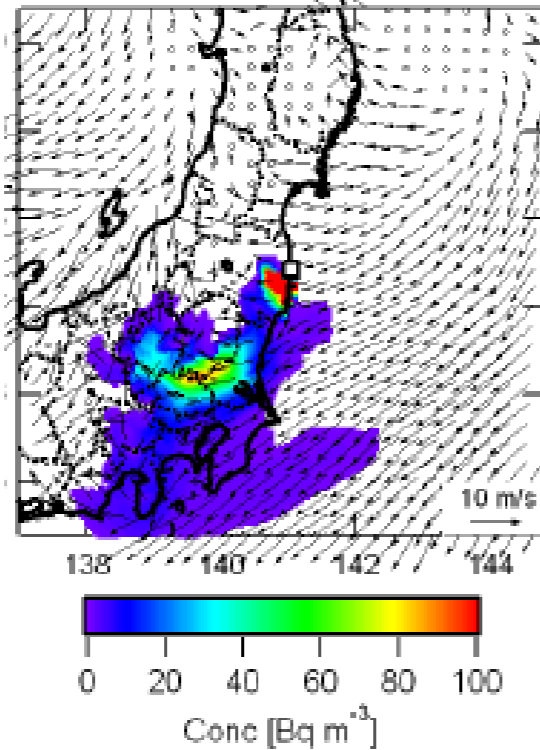
▶ 実測値との差違を議論したい



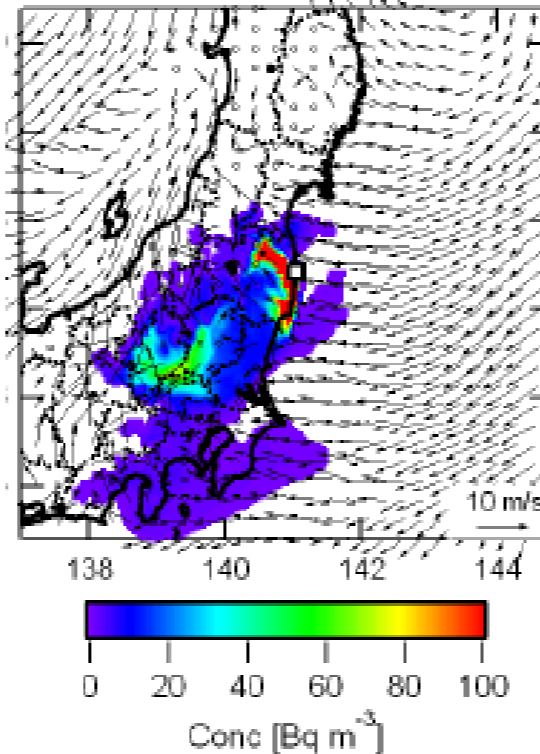
# ホットスポットの生成メカニズム

大気濃度

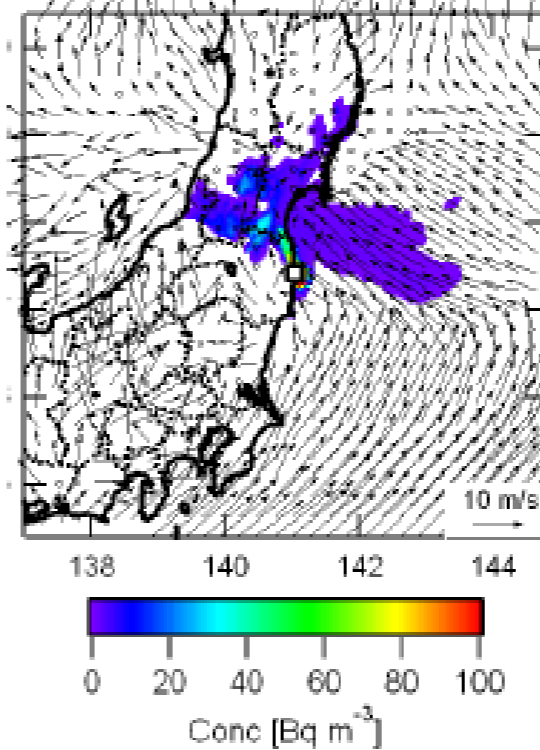
3/15の15時



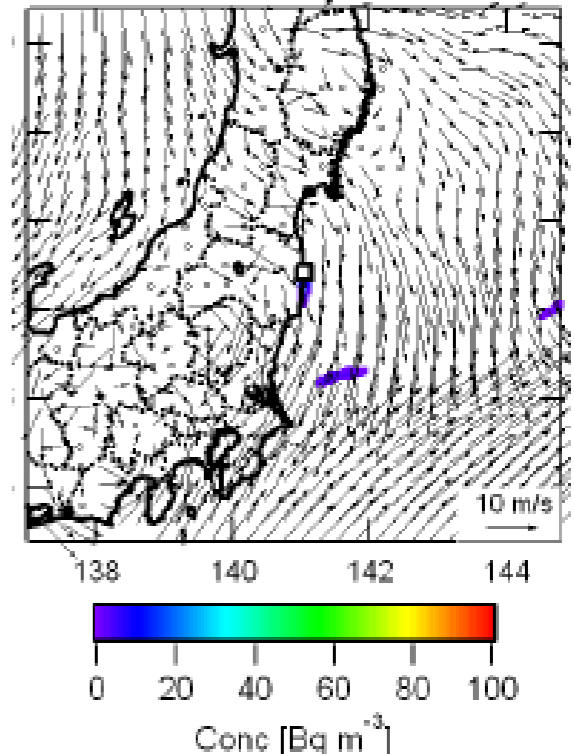
3/15の19時



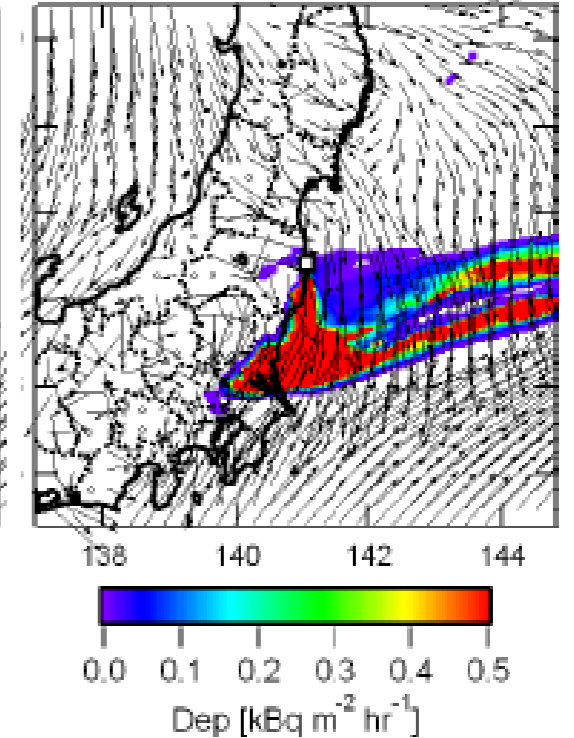
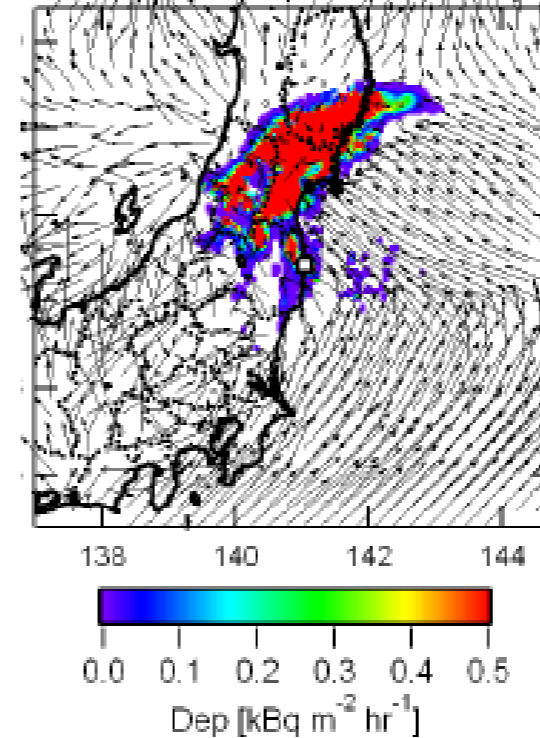
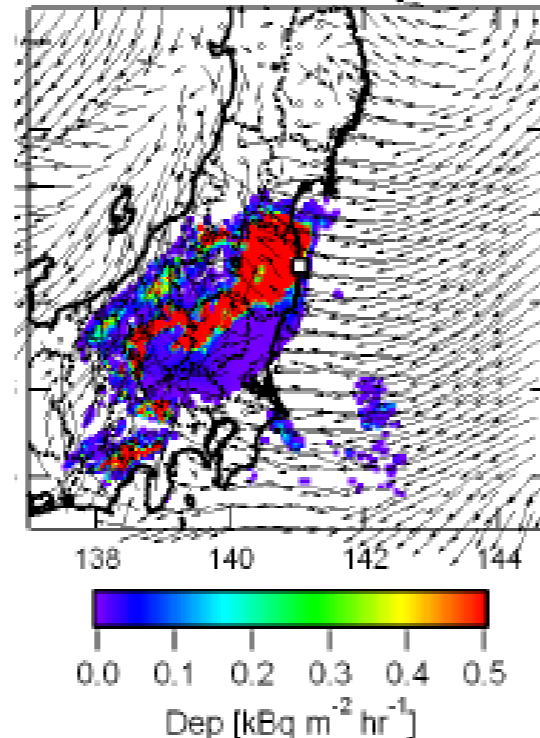
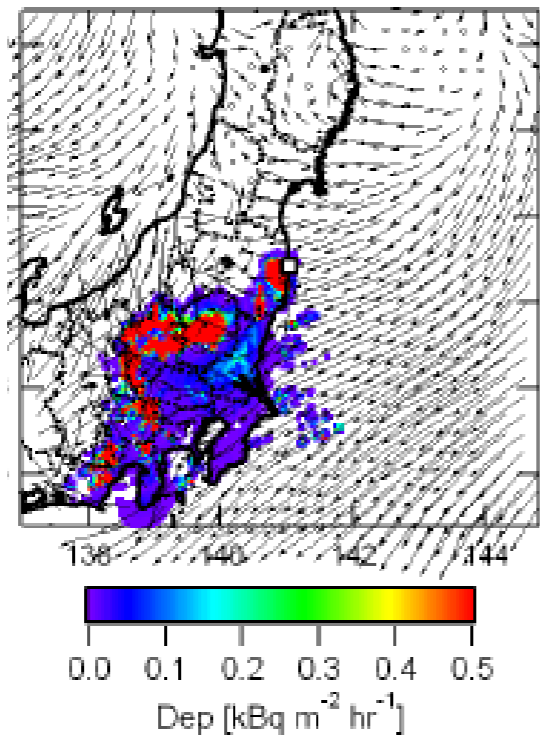
3/20の18時



3/21の8時



降下量



関東への最初の影響

福島 of 深刻な汚染、  
北関東の汚染

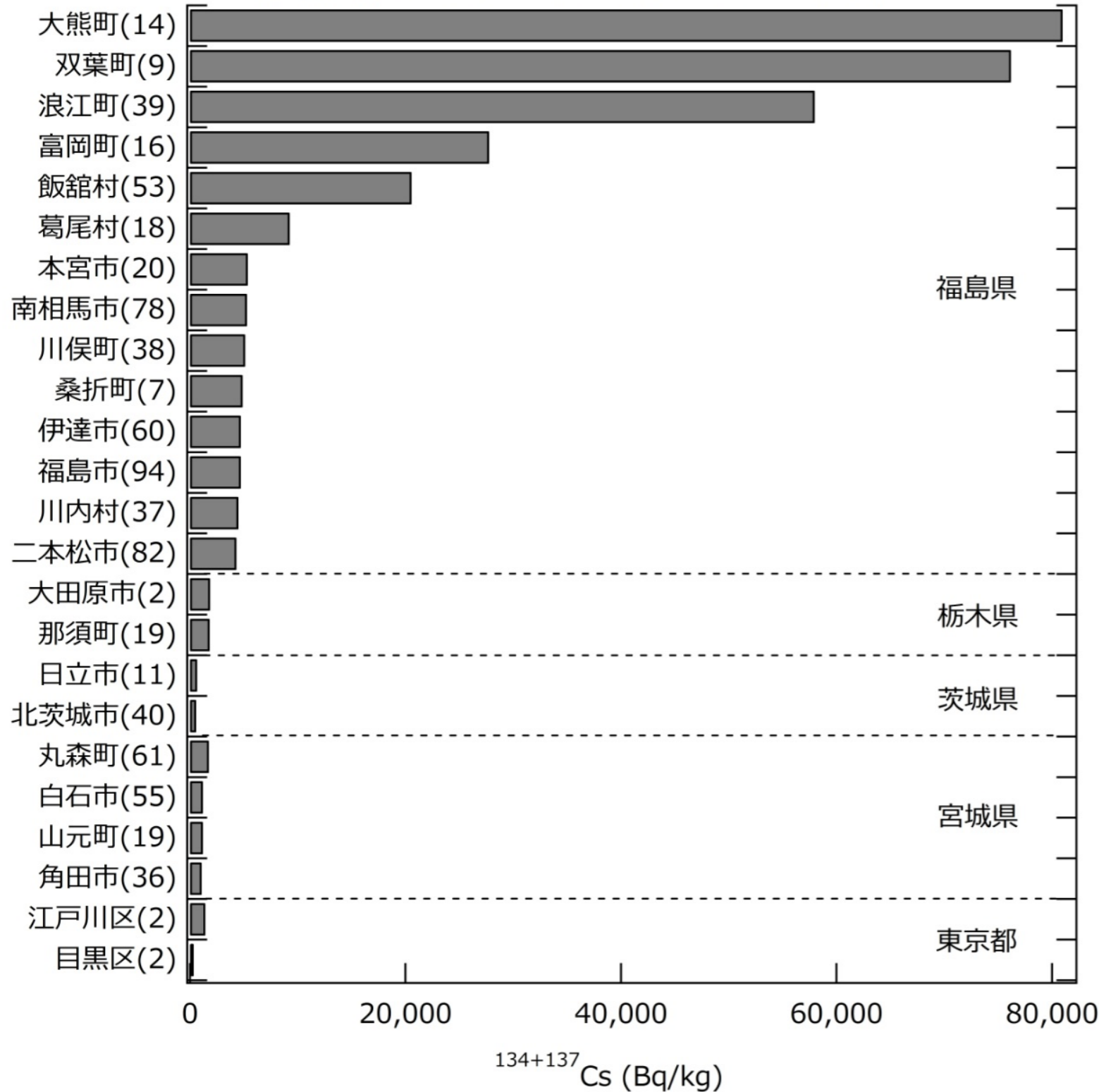
宮城県北部の稲藁汚染

水道水汚染、千葉北西部  
のホットスポット

# 広域的な放射性セシウムの評価(文部科学省提供)+自分のデータ

(小豆川勝見先生自身の観測データ)

非濃縮地点における土壤中の放射性セシウムの放射能



放射性セシウム( $^{134}+^{137}\text{Cs}$ 合算値)  
 測定点はすべて非濃縮地点  
 それぞれ5-40点程度の平均値



大熊町でのサンプリングの様子

1. 市町村名の中の(カッコ)内の数字はサンプル数であり、ここではその平均値を示した。
2. 土壌サンプルの採取は2011年6月から7月であり、採取時点で半減期補正を行っている。
3. 文部科学省から提供された値に筆者の測定結果を加えた。



# 原発周辺で観測された核種

$^{131}\text{I}$ ,  $^{134}\text{Cs}$ ,  $^{137}\text{Cs}$ ,  $^{110\text{m}}\text{Ag}$ ,  
 $^{132}\text{Te}$ ,  $^{132}\text{I}$ ,  $^{140}\text{Ba}$ ,  $^{140}\text{La}$ ,  
 $^{89}\text{Sr}$ ,  $^{89}\text{Y}$ ,  $^{95}\text{Zr}$ ,  $^{95}\text{Nb}$ ,  
 $^{239}\text{Np}$ ,  $^{59}\text{Fe}$

Shozugawa et al., 2012

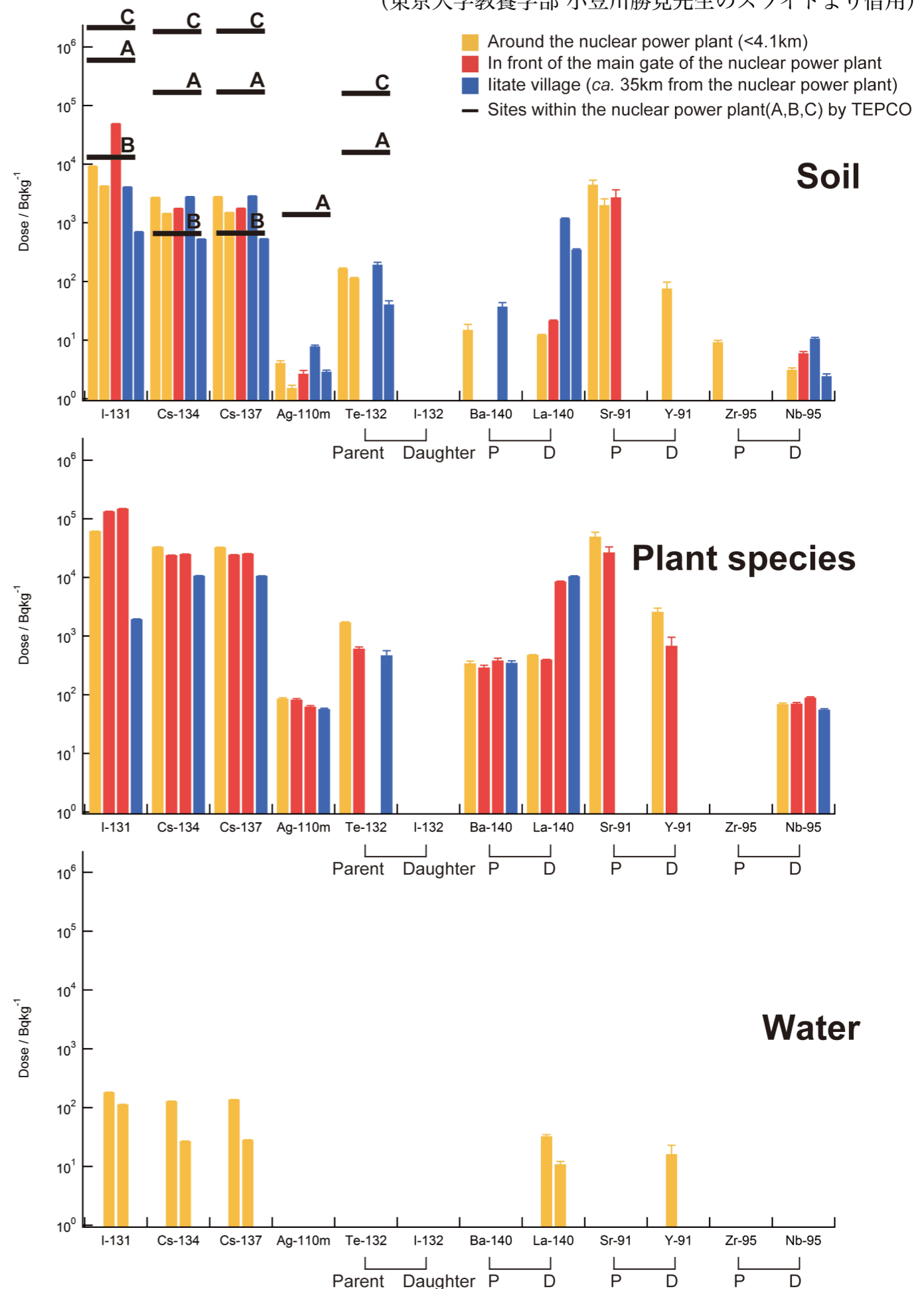
$^{125}\text{Sb}$ ,  $^{127\text{m}}\text{Te}$ ,  $^{129\text{m}}\text{Te}$ ,  
 $^{136}\text{Cs}$ ,  $^{141}\text{Ce}$ ,  $^{144}\text{Ce}$ ,  $^{54}\text{Mn}$ ,  
 $^{58}\text{Co}$ ,  $^{60}\text{Co}$ ,  $^{114\text{m}}\text{In}$

小島ら, 2011,2012

$^{241}\text{Pu}$

Zheng et al, 2012

(東京大学教養学部 小豆川勝見先生のスライドより借用)



# 核種ごとの放出量の予測（原子力保安院による）

解析で対象とした期間での大気中への放射性物質の放出量の試算値 (Bq)

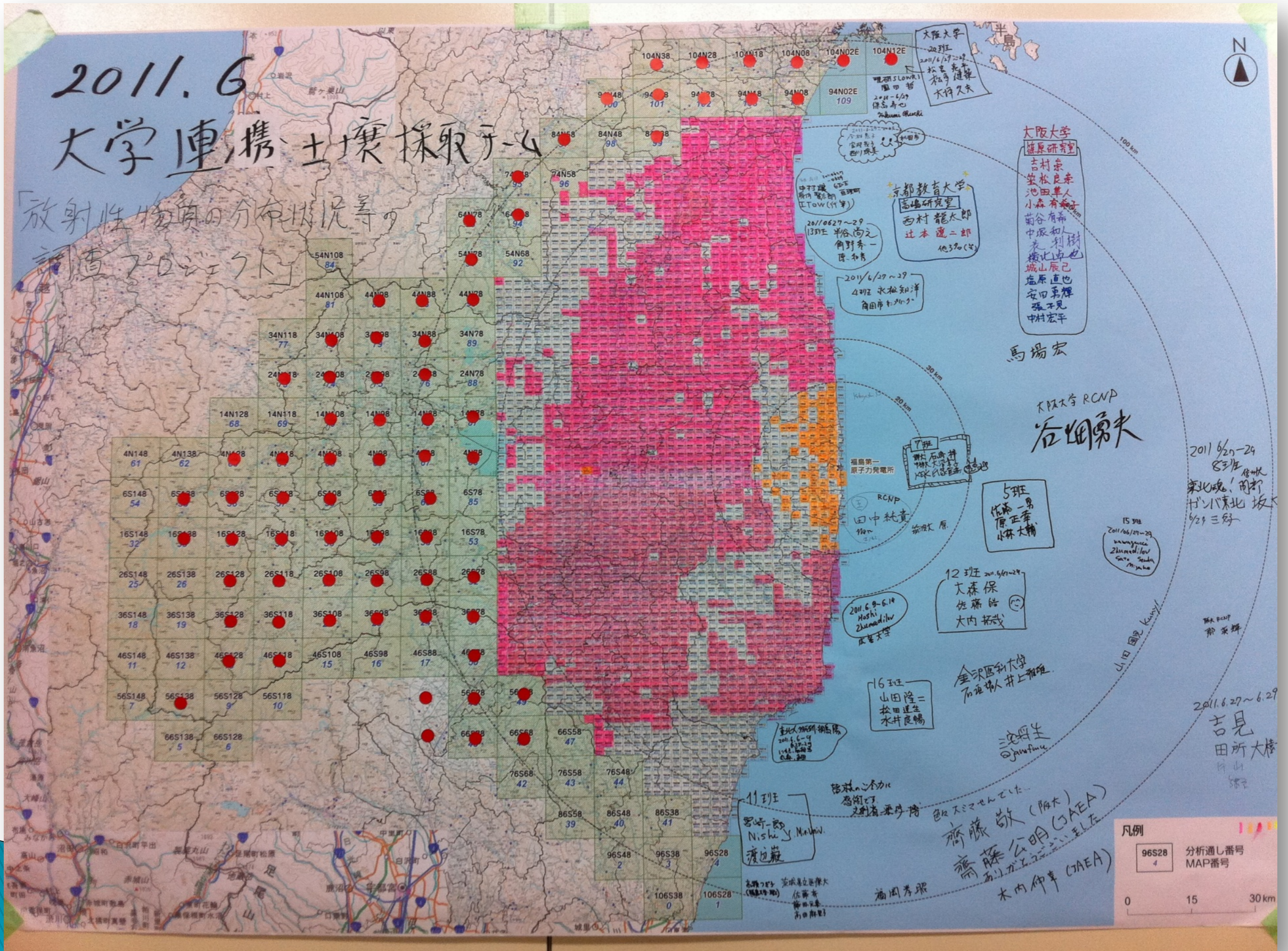
核種	1号機	2号機	3号機	放出量合計
Xe-133	$3.4 \times 10^{18}$	$3.5 \times 10^{18}$	$4.4 \times 10^{18}$	$1.1 \times 10^{19}$
Cs-134	$7.1 \times 10^{14}$	$1.6 \times 10^{16}$	$8.2 \times 10^{14}$	$1.8 \times 10^{16}$
Cs-137	$5.9 \times 10^{14}$	$1.4 \times 10^{16}$	$7.1 \times 10^{14}$	$1.5 \times 10^{16}$
Sr-89	$8.2 \times 10^{13}$	$6.8 \times 10^{14}$	$1.2 \times 10^{15}$	$2.0 \times 10^{15}$
Sr-90	$6.1 \times 10^{12}$	$4.8 \times 10^{13}$	$8.5 \times 10^{13}$	$1.4 \times 10^{14}$
Ba-140	$1.3 \times 10^{14}$	$1.1 \times 10^{15}$	$1.9 \times 10^{15}$	$3.2 \times 10^{15}$
Te-127m	$2.5 \times 10^{14}$	$7.7 \times 10^{14}$	$6.9 \times 10^{13}$	$1.1 \times 10^{15}$
Te-129m	$7.2 \times 10^{14}$	$2.4 \times 10^{15}$	$2.1 \times 10^{14}$	$3.3 \times 10^{15}$
Te-131m	<u><math>2.2 \times 10^{15}</math></u>	<u><math>2.3 \times 10^{15}</math></u>	<u><math>4.5 \times 10^{14}</math></u>	<u><math>5.0 \times 10^{15}</math></u>
Te-132	<u><math>2.5 \times 10^{16}</math></u>	<u><math>5.7 \times 10^{16}</math></u>	<u><math>6.4 \times 10^{15}</math></u>	<u><math>8.8 \times 10^{16}</math></u>
Cm-242	$1.1 \times 10^{10}$	$7.7 \times 10^{10}$	$1.4 \times 10^{10}$	$1.0 \times 10^{11}$
I-131	$1.2 \times 10^{16}$	$1.4 \times 10^{17}$	$7.0 \times 10^{15}$	$1.6 \times 10^{17}$

原子力安全に関するIAEA閣僚会議に対する日本国政府の報告書-東京電力福島原子力発電所の事故について-(原子力災害対策本部, 2011年6月)

使用している核燃料 (**UO<sub>2</sub> or MOX**)、核燃料の使用経過時間、放出経路によって値は異なる。



# 文科省主催の土壌採取プロジェクト(2011年6月)





## 福島での測定例 (東京大学 塩沢らによる)

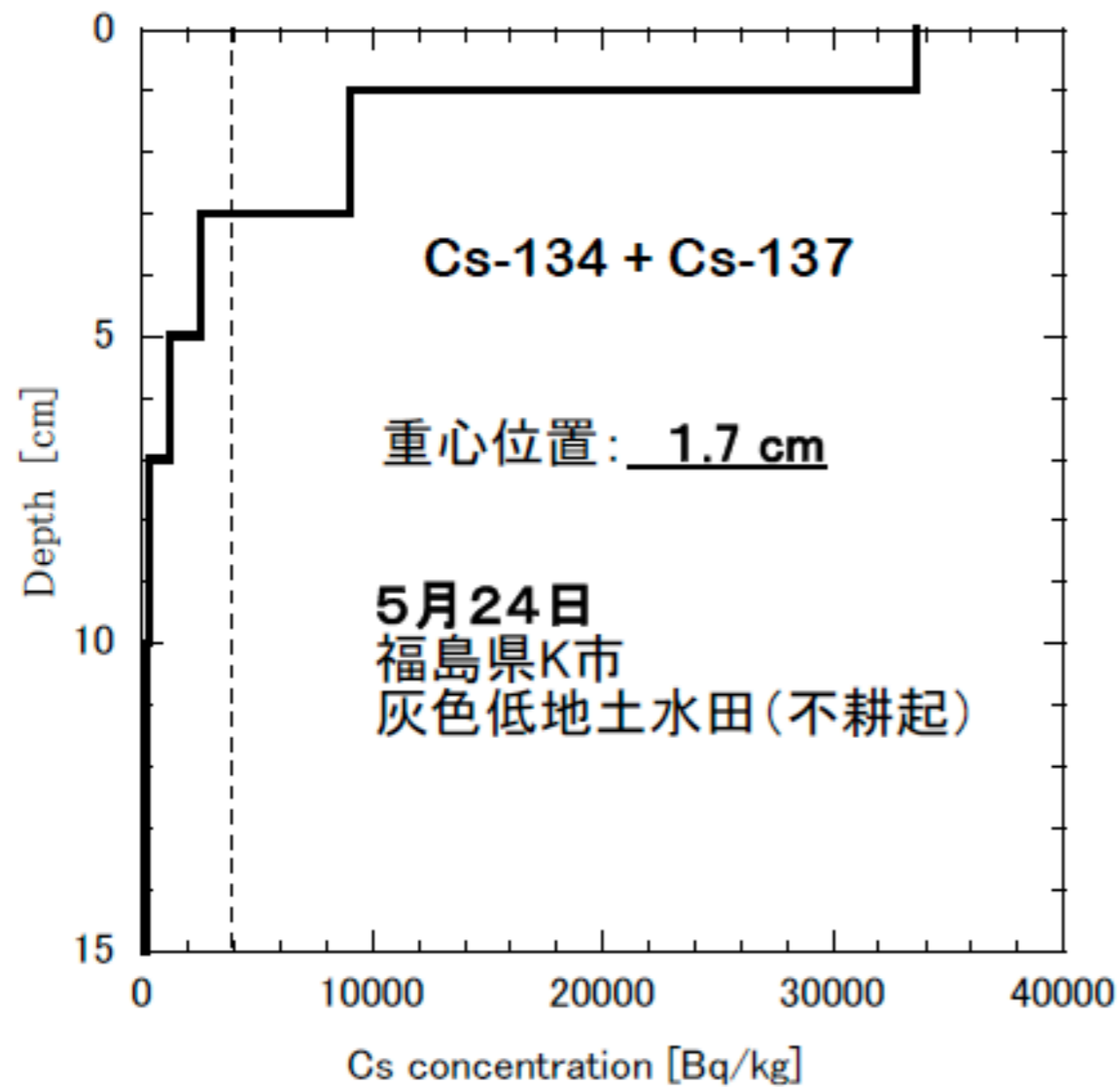


図 1 a 水田土壤の放射性 Cs の鉛直分布例 1

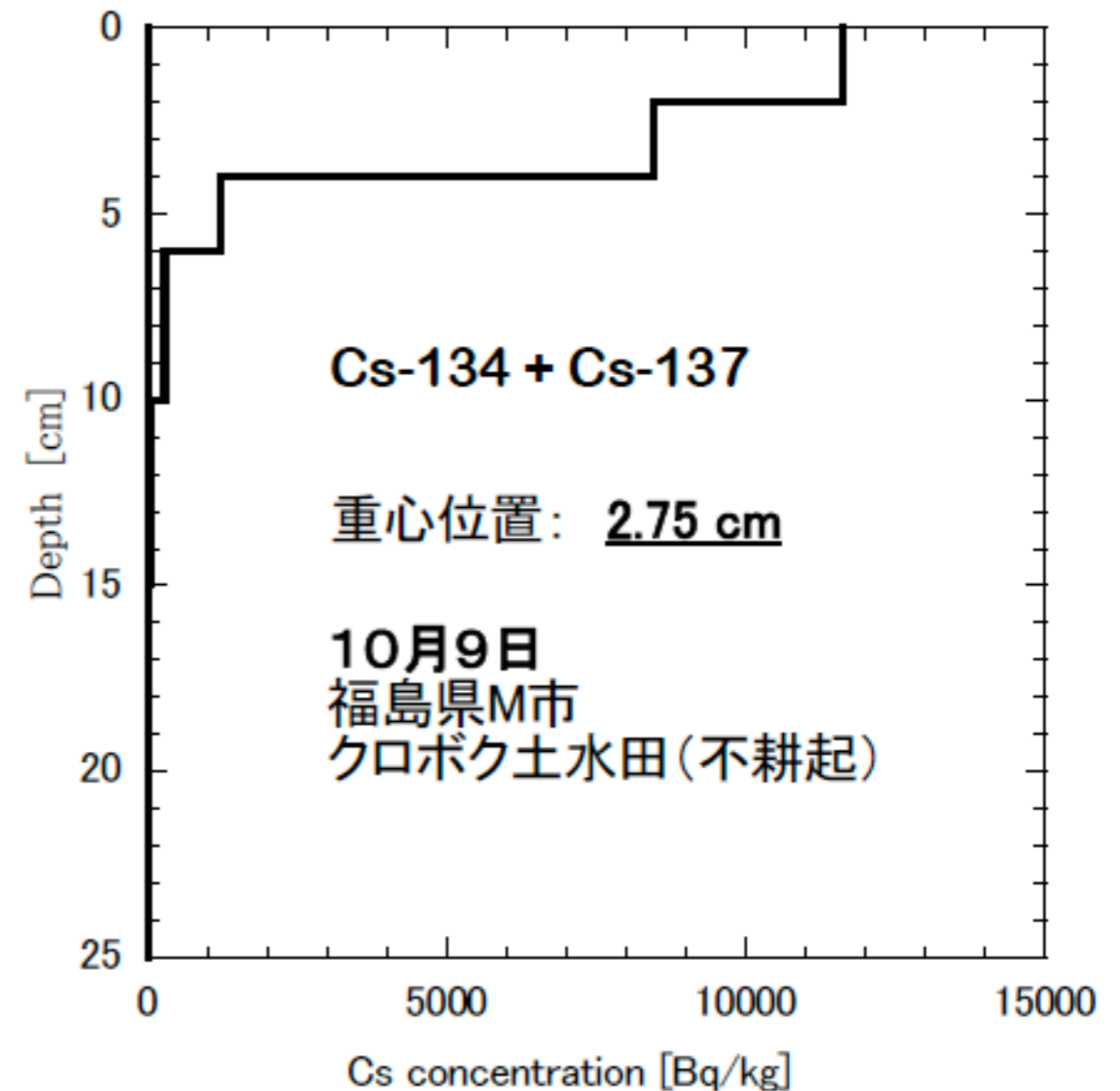


図 1-b 水田土壤の放射性 Cs の鉛直分布例 2

**$^{137}\text{Cs}$  は浅い。表土 5 cm 以内にほぼ収まっている。  
うち大半が上層 1 cm にある。**



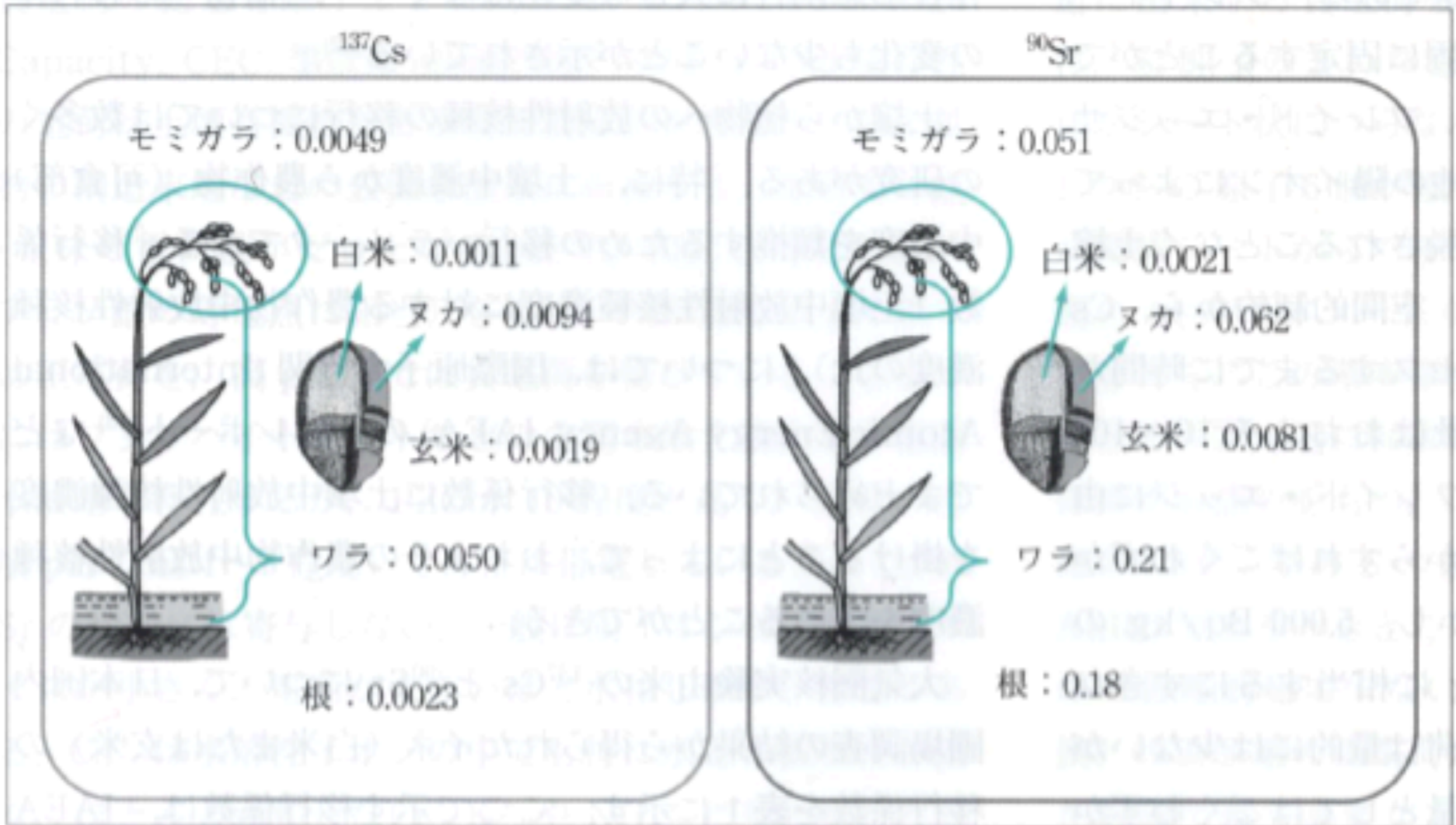
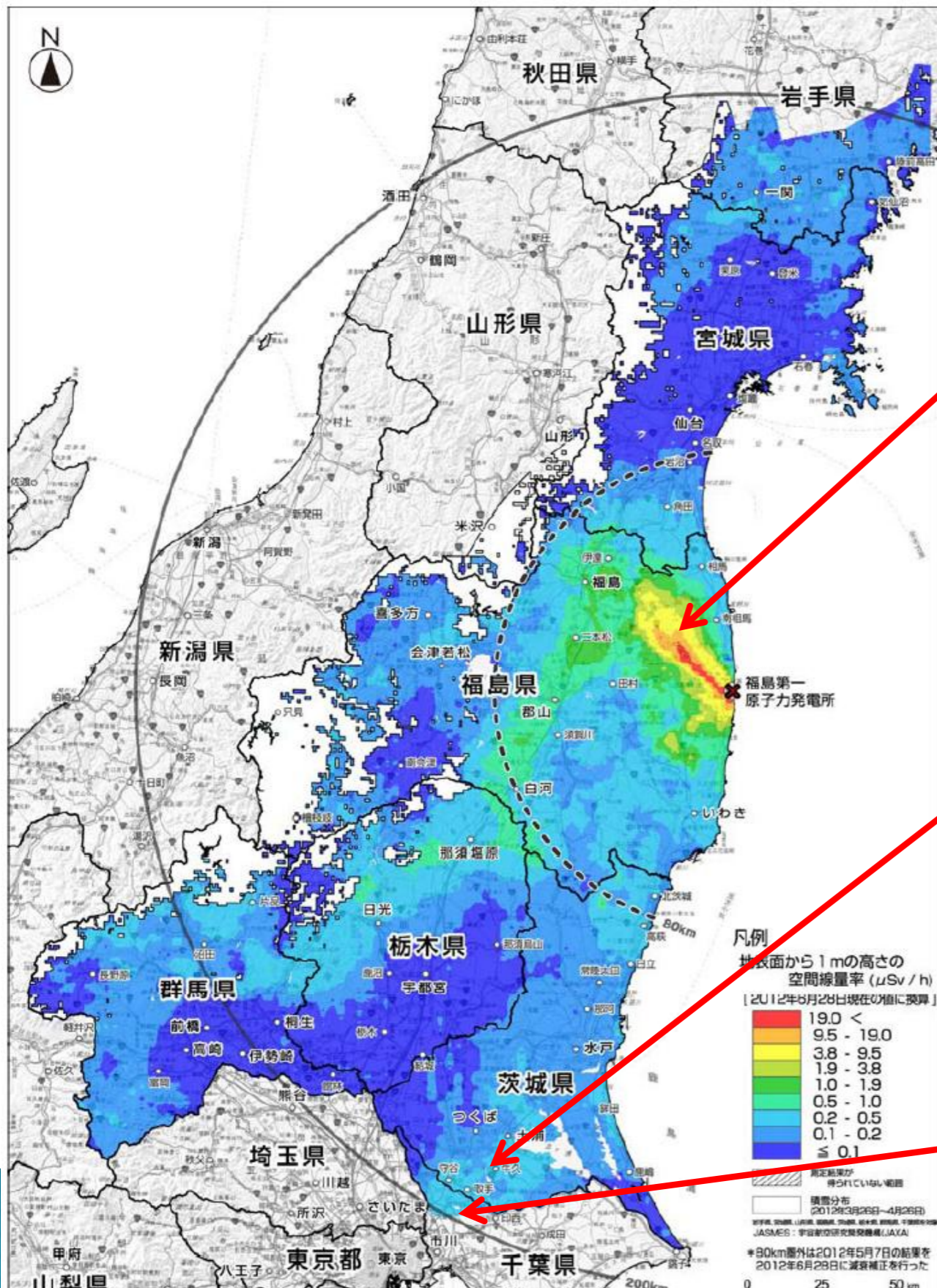


図5 ■ 土壌中濃度を 1.0 としたときのイネにおける部位別  $^{137}\text{Cs}$  および  $^{90}\text{Sr}$  の相対濃度

福島産の米は全袋検査されている。現状はほとんど全てが不検出。



# 原発北西方向の汚染と「ホットスポット」



福島県 飯舘村



茨城県 守谷市



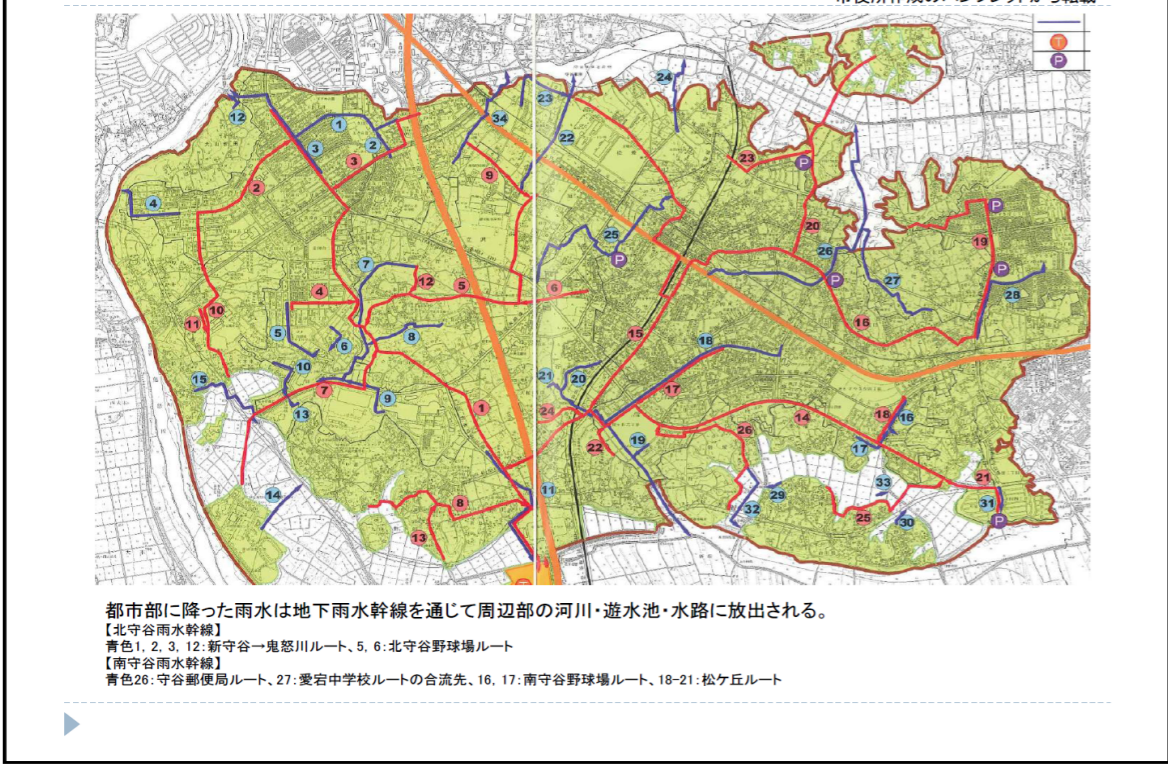
千葉県 柏市

①第5次航空機モニタリングの測定結果、及び②福島第一原子力発電所から80km圏外の航空機モニタリングの測定結果について(文部科学省, 平成24年9月28日)



# 濃縮の顕著な例 - 茨城県守谷市 放射性物質の都市濃縮

## 守谷市雨水・下水幹線



## 住宅地からの雨水の処理



## 公園は雨天時の調整池として活用



雨天時



## ホットスポット・ホットエリアの形成

これまでに測定してきた守谷市内の地点 (東大教養：放射化学：小豆川氏)  
市役所周辺(大柏)・プロムナード水路・城址公園・愛宕中裏手・郵便局・松ヶ丘・五反田川・みずき野・けやき台公園など...

(東京大学教養学部 小豆川勝見先生のスライドより借用)



# 除染

写真：福島大学キャンパスのモデルケース

セシウム元素：土壌表層

土壌の引き剥がし、天地返し

拭き取り、高圧洗浄

吸着剤（ゼオライト・プルシアンブルー・粃殻・稲藁）

除染物の保管  
焼却処分



飯舘村



浪江町





大熊町



双葉町



富岡町





# 相馬野馬追



